

平成30年度

年 報

第 26 号



福井県自然保護センター

は じ め に

福井県自然保護センターは、平成2年7月に開設され、平成30年度で開設29年目を向かえました。開館以来、自然系展示、天体観望会、自然観察の森ガイド、県内各地での自然観察会や自然再生活動、資料収集や調査研究などの事業を通し、一貫して本県の自然の素晴らしさや楽しさを発信し、広く県民の皆様の中に、自然に親しみ、自然を守り育てる心を育んできました。

さて、この30年程の時間を振り返りますと、県内の自然環境もまた次第に変化しつつあります。かつて県内に広く分布していたはず身近な種の多くが、平成28年に発刊された改訂版福井県の絶滅のおそれのある野生動植物（レッドデータブック）では、絶滅危惧種にリストアップされています。中でもよく知られている種は、メダカ、トノサマガエル、イシガメ、ゲンゴロウなどの身近な水辺に生息している種です。万葉の時代から日本人に親しまれ、秋を彩ってきた「秋の七草」の中にも絶滅危惧種が見られます。オミナエシ、キキョウ、フジバカマなどの草原性の植物です。このように身近な水辺や草原に生育・生息している種の中に、絶滅危惧種が多く見られるのが現在の特徴です。

一方、すでに50年ほど前に国内から野外の個体群が絶滅してしまったトキやコウノトリは、積極的な復活プロジェクトが少しずつ成果を上げ、本県においても2017年には、1966年以来、実に51年ぶりに、コウノトリの野外での繁殖行動が見られました。また明治時代以降、狩猟圧によって数が少なく維持されてきた、イノシシ、ニホンジカ、ツキノワグマ、ニホンザルなどの中大型哺乳類も増加しており、農林業被害や生活環境被害などの人との軋轢が絶えないほどに増加しました。増えた哺乳類たちは、貴重な高山植物群落や森林内の林床植生を改変させるなどの生態系被害も引き起こしています。さらに本来その地域に生育・生息していなかった外来種が人の手で持ち込まれ、在来種の生育・生息を脅かす被害も至る所で発生しています。とりわけ本県では、侵略的な外来種であるウシガエル、アメリカザリガニ、ブラックバス、ブルーギル、オオハンゴンソウなどが、在来種の多様性が高い良好な自然環境の中に侵入し、在来種を著しく減少させている事例が後を絶ちません。そのためこれからの自然保護は、減少しつつある種を守り育てる一方で、増えすぎた種の個体数を適度に管理（侵略的な外来種の場合は根絶）するといった保護と管理のバランスを失わないことが必要な時代になってきたのです。

地球上に生命が誕生してから約40億年。その長い年月の間に生命は多様な進化を遂げ、

現在その種数は500万～3,000万種といわれています。しかし今、多くの科学者により、地球史上6回目の大量絶滅が静かに確実に進行しているという説が報告されています。6回目の大量絶滅の一番の原因は、私たち人類の活動の拡大によるものです。私たちが多様な生物で構成された生態系から恩恵を受けてきた恵みの数々、その同じ恵みを私たちの子孫にもつなげていくためには、現在の生態系を守り育て、その恵みを持続的に利用していく「賢明な利用」の理念の遂行が不可欠な時代になったのです。そのため当センターでは、絶滅危惧種の生息を確保するための生息環境の保全・再生や生息域外保全活動、生態系に被害を及ぼし在来種の生息を脅かしている侵略的な外来生物を取り除く活動に、多くの力を注ぐようになってきました。しかしこのような自然再生活動は、決して当センターだけで成り立つものではありません。県民の皆様一人一人が、生き物たちの存在に暖かい眼差しを注ぎ、その存在が持続されるように生育・生息環境を残す心配りの気持ちを持つことが必要です。つまり、人と生き物が共に寄り添って生きる「共生」の理念の構築に向けて、活動を続けていくこともまた、自然保護センターの大きな役割です。

この「年報」は、その自然保護センターの足跡を後世に残すために、当該年度の事業活動を取りまとめ、その歩みの記録として毎年発刊しております。今後も当センターでは、この資料を基盤として、時代や社会の情勢に即した自然環境の現状把握に努め、そこから得られた情報の発信を行いつつ、子孫にも私たちと同様の豊かな恵みが享受される自然環境を継承していくために、生物多様性の保全・再生・活用に努めてまいります。

なお最後に、日頃より当センターの事業を支えていただいております運営会議委員、ナチュラリストリーダー、関係団体の皆様など多くの方々にこの場を借りて厚くお礼申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

平成31年3月

福井県自然保護センター所長 松 村 俊 幸

目

次

I	自然保護センターの概要	1～3
1	施設の概要	1
2	施設の平面図・面積表	2
3	組織と事業概要	3
II	自然保護センターの事業の展開	4～30
1	展示事業	4～6
	(1) 常設展示 (2) 特別展や写真展示など (3) 生体展示	
	(4) 冬の野鳥レストランの開設 (5) 入館者数	
2	指導普及事業	7～19
	(1) 自然観察会などの企画開催 (2) 天体観望会の企画開催	
	(3) 館内・自然観察の森ガイド (4) 特別企画など	
	(5) 生き物百葉箱事業 (6) インターネットによる自然情報の発信	
	(7) 普及誌の発行 (8) 傷病鳥獣救護	
	(9) 自然に関する相談	
	(10) 重要里地里山保全地区、生き物共生ホットエリア（重点活動地域）への支援事業	
	(11) 侵略的な外来種防除対策	
3	研修養成事業	20～21
	(1) ナチュラリスト養成 (2) ナチュラリストリーダー養成 (3) 研修生の受け入れ	
4	資料収集事業	22
	(1) 標本資料 (2) 視聴覚資料 (3) 文献資料 (4) 天文写真資料	
5	調査研究事業	23～26
	(1) 渡り鳥保全調査（鳥類繁殖状況調査）	
	(2) ガンカモ科鳥類生息調査（鳥類生息調査事業）	
	(3) カワウ生息調査（鳥類生息調査事業）	
	(4) 自然観察の森周辺環境調査	
	(5) ブナ科樹木の豊凶調査（ツキノワグマ保護管理計画推進事業）	
	(6) ヤシャゲンゴロウ生息域外保全事業	
	(7) ブナ林衰退地域における総合植生モニタリング手法の開発	
	(8) 2018年 日本の原風景「赤とんぼ」を見つめ直すプロジェクト調査	
	(9) Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）の発行	
6	その他	27～30
	(1) 福井県自然保護関係機関連絡会議の開催	
	(2) 大型野生動物の救護・放獣に関わる指導協力	
	(3) 職員の派遣 (4) 学会・研究集会・シンポジウムでの発表	
	(5) 委員の受託など (6) 事業協力を行った関係団体	
III	そ の 他	31～37
1	1年のあゆみ	31～32
2	施設利用実績	33～34
3	運営会議	35
4	気象データ	35
5	関係条例・規則	36～37

I

自然保護センターの概要

1 施設の概要

1. 所在地：福井県大野市南六呂師169-11-2

2. 施設の概要

(1) 本館（平成2年度完成、平成14年度展示更新）

- ①面積 建て面積：1,151.13㎡ 延べ面積：2,111.27㎡
- ②構造 木造・鉄筋コンクリート混構造3階建て（地下1階、地上2階）
- ③施設 1階：展示室、レクチャーホール、ボランティアルーム、事務室等
2階：展示室、森の学習室、工作室、会議室等
地下：資料室、飼育室等

(2) 観察棟（平成元年度完成）

- ①面積 建て面積：209.62㎡ 延べ面積：418.86㎡
- ②構造 鉄筋コンクリート3階建て
- ③施設 1階：プラネタリウム室（座席44名）、事務室
2階：野外観察室（観察用望遠鏡設置）
3階：天体観測室（80cm反射式望遠鏡1台、付属望遠鏡設置）

(3) 自然観察小屋2棟（平成3年度完成）

- ①面積 1棟の建て面積：19.72㎡ 1棟の延べ面積：27.36㎡
- ②構造 木造2階建て
- ③施設 1階、2階：動物観察室

(4) 自然観察の森（平成4年度完成）

- ①面積 約28ha
- ②施設 広 場：学習広場、ファミリー芝生広場
遊歩道：アプローチ道路やとんぼの小径など
湿原等：妻平湿原、馬取池、とんぼの池

3. 自然保護センター開館日

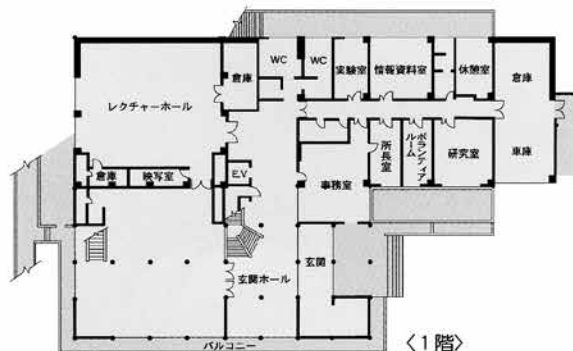
平成2年7月12日

2 施設の平面図・面積表

本館



〈2階〉



〈1階〉



〈地下1階〉

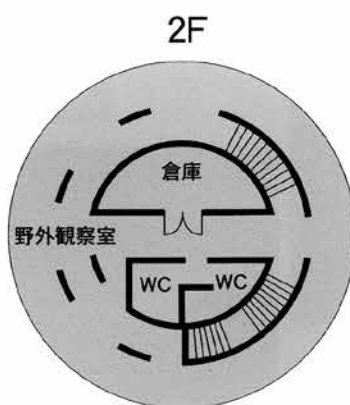
本館面積表(2,111m²)

地 階		1 階		2 階	
室 名	面積(m ²)	室 名	面積(m ²)	室 名	面積(m ²)
一般資料室	69	展示室	313	展示室	277
乾燥資料室	43	レクチャーホール	165	森の学習室	60
飼育準備室	23	事務室	61	資料室	28
飼育室(4室)	54	所長室	20	工作室	84
機械室	95	ボランティアルーム	19	工作準備室	22
電気室	28	研究室	40	会議室	52
廊下・プロワー室	103	休憩室	28	倉庫	43
ポンプ室・エレベーター		情報資料室	35	暗室・便所・その他	67
他		実験室	20		
		映写室	11		
		車庫	76		
		倉庫	29		
		廊下・更衣室・ポーチ	246		
		玄関・便所・他			
合 計	415(m ²)		1,063(m ²)		633(m ²)

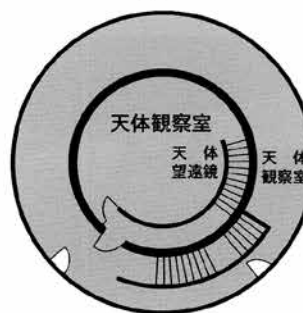
観察棟



1F



2F



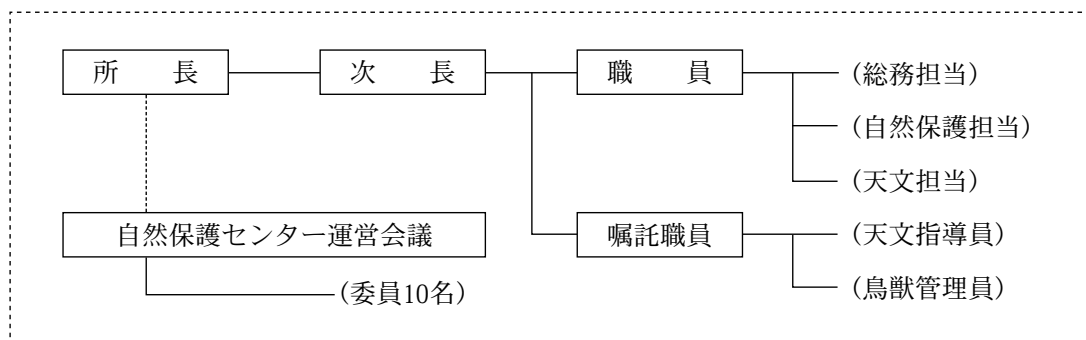
3F

観察棟面積表(418m²)

階	室名	面積(m ²)	計
1	プラネタリウム室	45	132m ²
	ホール	41	
	事務室	16	
	玄関・倉庫・その他	30	
2	観察室	111	154m ²
	倉庫	15	
	その他	28	
3	天体観察室(内)	45	132m ²
	天体観察室(外)	67	
	階 段	20	
合計			418m ²

- 1階 プラネタリウム室 44名収容 スクリーン直径6.5m
 2階 野外観察室 50名収容 2台の野外観察用望遠鏡-動・植物の観察
 3階 天体観察室 50名収容 口径80cmの反射望遠鏡1台 口径10cmの屈折望遠鏡2台
 口径20cmの屈折望遠鏡1台 口径20cmの反射望遠鏡3台
 TVカメラ装置の設置

3 組織と事業概要



■職員構成 (平成30年度)

職 種 \ 担 当	所 長	次 長	総 務	自然保護・天文	計
事 務		1	1	2	4
自 然 保 護 職	1			1	2
教 職 員				1	1
嘱 託 職 員				2	2
計	1	1	1	6	9

■事業概要 (平成30年度)

- 展示事業
 - 常設展示
 - 特別展や写真展など
 - 特別企画
 - 生体展示
 - 冬の野鳥レストランの開設
- 指導普及事業
 - 自然観察会・自然講座・天文教室の実施
 - 天体観望会・プラネタリウムの実施
 - 生き物百葉箱推進
 - 普及誌の発行、自然情報・イベント情報の発信
 - 自然愛護事業（傷病鳥獣救護を含む）の実施
 - 自然に関する相談、対応
 - 館内・自然観察の森ガイドの実施
 - 重要里地里山の保全活動、生き物共生ホットエリア等への支援事業
 - 侵略的な外来種防除対策
 - 自然観察会・自然講座・天文教室の実施
- 研修養成事業
 - ナチュラリスト、ナチュラリストリーダーの養成
 - 研修生の受け入れ
- 資料収集事業
 - 標本・視聴覚・文献・天文写真資料の収集および保管
- 調査研究事業
 - 渡り鳥保全調査
 - ガンカモ科鳥類生息調査
 - カワウ生息調査
 - 自然観察の森周辺環境調査
 - ブナ科樹木の豊凶調査（ツキノワグマ保護管理計画推進事業）
 - ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業
 - ブナ林衰退地域における総合植生モニタリング手法の開発
 - 2018年 日本の原風景「赤とんぼ」を見つめ直すプロジェクト調査
- その他
 - 福井県自然保護関係機関連絡会議
 - 大型野生動物の捕獲・放獣に関わる指導協力
 - 事業協力を行った関係団体
 - 職員の派遣

Ⅱ 自然保護センターの事業の展開

1 展示事業

自然保護に関する情報や調査研究、資料収集の成果を公開し、県民に自然の素晴らしさと保護の重要性を伝えた。

(1) 常設展示

本館（平成14年度に更新）

【1階】 「自然観察へ行こう」 「福井の水辺を考える」 「刈込池のブナ林」 「レクチャーホール標本展示」

【2階】 「森の仲間たち」 「福井の自然観察三昧」 「山のめぐみ」 「失われ行く生物多様性」 「生物を守る努力」 「地球環境問題を考える・エコロ人度チェック」 「森の学習室」 「ビデオコーナー」

観察棟

【1階】 「太陽系展示パネル」 「天体写真」コーナー

【2階】 「隕石」コーナー 「彗星」写真コーナー

(2) 特別展や写真展示など

タイトル	期間	会場	主な展示物
愛鳥週間ポスター 入賞作品展	4月24日～ 5月11日	1階レクチャーホール	県内児童が描いた愛鳥週間ポスターの入賞作品（主催：自然環境課）
ふくい動物 はくせいクイズ	4月29日～ 7月29日	1階レクチャーホール	県内に生息する野生鳥獣の剥製 幼児・児童向けの鳥獣に関するクイズパネル
白山国立公園 パークボランティア 写真展	7月22日～ 8月2日、 1月26日～ 2月17日	1階レクチャーホール	パークボランティアが撮影した 白山国立公園の写真（主催：環境省白山自然保護官事務所）
福井県の猛禽類	10月～	1階レクチャーホール	県内に生息する猛禽類のはく製
生物情報	年間	1階玄関ホール	来館者から提供された生物情報を写真
自然保護センターで保護 飼養された動物たち	年間	1階玄関ホール	職員が撮影した保護飼養された鳥獣の写真
自然観察の森で見られる 花や果実、冬芽	年間	1階玄関ホール	職員が撮影した自然観察の森の花や果実、冬芽などの写真
季節ごとの天体写真	年間	2階ホール	M51子持ち銀河、M104ソング レロ銀河等の写真
彗星	年間	2階ホール	彗星の写真

(3) 生体展示

タイトル	期間	会場	主な展示物
ヤシャゲンゴロウ	年間	1階玄関ホール	ヤシャゲンゴロウ（成虫）
北潟湖や池ヶ原湿原の水生生物	年間	1階玄関ホール	スッポン、イシガメ、クサガメ、ドジョウ等
タッチコーナー	7月～8月	本館玄関	カブトムシ

(4) 冬の野鳥レストランの開設

野鳥の餌が少ない冬期間（平成31年1月5日～2月28日）に、本館の森の学習室の屋外に野鳥の餌台を設置し、観察する場を設けた。また、野鳥写真撮影用に、屋外に撮影ボックス（2人収容）を設置した。

平成30年度に確認された野鳥は21種であった。例年どおり、ヤマガラとシジュウカラが多く見られた。例年と違い降雪量が極端に少なかったため、野鳥の訪問回数は少なかったが、エナガやアトリが例年と比べ多く訪れ、来館者の目を楽しませた。

本年度は、従来から与えている餌（ヒマワリ、アサの実、牛脂、カキ、ミカン、カラスザンショウの実）に加え、ピーナッツを細かく粉碎したものやバードケーキ（ピーナッツ＋牛脂＋砂糖）を設置した。ピーナッツを粉碎したものにはシジュウカラなどに限られたが、バードケーキについては多くの野鳥が牛脂よりも好んで食べる様子が観察された。

観察された野鳥

順位	種名	回数	順位	種名	回数
1	ヤマガラ	2,116	11	カケス	33
2	エナガ	2,003	12	メジロ	32
3	シジュウカラ	1,148	13	カシラダカ	27
4	コゲラ	319	14	ミソサザイ	23
5	コガラ	246	15	ミヤマホオジロ	18
6	ヒヨドリ	215	16	ウソ	4
7	アカゲラ	209	16	ルリビタキ	4
8	アトリ	207	18	ゴジュウカラ	2
9	オオアカゲラ	35	19	ヒガラ	1
10	アオゲラ	34	19	ジョウビタキ	1
			19	ツグミ	1

期間中入場者数

月	入場者数	撮影ボックス 利用者数
1月	1,031	21
2月	1,051	18
計	2,082	39

冬の野鳥レストラン期間中の展示

タイトル	期間	会場	主な展示物
野鳥の写真コーナー	1月～2月	森の学習室 （本館2階）	来館者が撮影した野鳥の写真

(5) 入館者数

	平成30年度人数（人）	累計人数（人）
本館	22,752	622,113
観察棟	10,381	408,175
計	33,133	1,030,288

ただし、観察棟入館者数は、天体観望会の参加人数を含む。

<入館者の推移>

年度	本館入館者	観察棟入館者	合計入館者
H25	17,127	10,205	27,332
H26	21,301	12,203	33,504
H27	18,807	11,493	30,300
H28	25,530	12,591	38,121
H29	24,988	12,048	37,036
H30	22,752	10,381	33,133

2 指導普及事業

自然保護の指導普及のために、以下の事業を実施した。

- ・自然を知り学ぶための普及啓発行事の企画、開催
- ・自然情報の発信
- ・自然や傷病鳥獣に関する相談回答
- ・生物多様性の保全のための調査や支援活動

(1) 自然観察会などの企画開催

自然教育や自然保護の普及啓発のために、以下のとおり自然観察会等を企画、開催した。

◆自然観察ウォーク

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
新緑の青葉山麓	5月12日(土)	高浜町青葉山麓	38
若狭富士の名で知られる青葉山の麓をゆっくり歩きながら、希少植物や薬草、歴史について学んでいただいた。			
カキツバタの咲く池河内湿原	5月26日(土)	敦賀市池河内	33
池河内湿原(福井県の自然環境保全地域)に生息するカキツバタや地元の諏訪神社にあるカツラの巨木などを観察していただいた。			
ハマナス咲く三里浜砂丘の自然	6月16日(土)	坂井市三里浜	24
きびしい条件に耐えながら生息するハマナスやハマヒルガオなどの砂丘植物やその周辺の森の植物の観察、海の生き物について学んでいただいた。			
歴史の浪漫街道ー木の芽古道ー	9月8日(土)	南越前町今庄	35
織田信長などの武将や松尾芭蕉が歩いたといわれる木の芽古道を歩き、過去の偉人たちに思いをはせると共に、動植物やこの地の歴史にふれていただいた。			
スノーシューで森の探検!	2月9日(日)	自然保護センター	25
例年よりも少ない積雪であったため、参加者にとっては大変歩きやすく探検する範囲も広がった。天気も良く、春の訪れを感じながらの観察会となった。			
池ヶ原湿原ガイド	5月19,26日 6月2,9,16,23,30日 7月14,21日	勝山市平泉寺町池ヶ原	95
5月19日～7月21日の毎週土曜日(7月7日は荒天のため中止)11:00～12:00、13:15～14:15の2回、延べ18回の観察会を実施した。計95名の参加者に湿原の自然を感じてもらうとともに、見頃の生物や湿原の歴史、保全活動の内容について解説した。			

◆夏休み標本教室

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
美しい植物標本を作ろう	7月21日(土)	自然保護センター	37
大人気の行事のため、定員を増やしての開催となった。暑い中での植物採集となったが、参加者は親子で協力しての標本作りに取り組み、とても楽しそうな様子であった。			
作ってみよう昆虫標本	8月4日(土)	自然保護センター	35
子どもたちが自分で作業するように、対象学年を小学校3年生以上とした。また、新たに少しレベルの高いバッタの標本作りにも挑戦しました。この標本教室で、自然の中の昆虫の姿、昆虫の果たす役割について学ぶこともできました。			

◆自然保護セミナー

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
驚きのクモの世界	9月8日(土)	自然保護センター	35
立命館大学名誉教授の吉田真氏による講義「今解き明かされるクモの不思議」に続いて、自然保護センターの森でクモの採集や観察を実施した。糸を使って獲物を狩るクモのユニークな生き方について学んでいただいた。			

(2) 天体観望会の企画開催

◆天文教室

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
天体望遠鏡を作ってみよう！	7月15日(日)	自然保護センター 本館・第1駐車場	40
望遠鏡づくりでは、天文リーダーが予備のキットで演示をしながら指導・支援をし、ほとんどの家族が順調に作業を進めることができた。当日は天候がたいへんよかったため、絶好の観望会となった。参加者のほとんどは、自作した望遠鏡で土星や木星を観察し、満天の星空を観望できたため、たいへん満足をしている様子であった。			
スマホやケータイで星を撮ろう	7月22日(日)	自然保護センター 観察棟	24
目標とする天体は、金星、木星、月、火星の4つの天体に絞った。1つの天体につき30分ずつの時間設定で撮影をした。撮影は80cm反射式と20cm屈折式の望遠鏡2つを使い、臨機応変に分かれて並んで回していった。自由研究対策のため、撮影方法の資料とワークシートを渡し、順番待ちの時間に記入していった。天候がたいへんよかったため、参加者のほとんどが満足している様子であった。			
ペルセウス座流星群をみよう	8月12日(日)	自然保護センター 本館・第1駐車場	中止
昨年度に引き続き、雨天により中止となった。平成30年度も、ミルク工房駐車場での星空観察者に向け、池ヶ原湿原のトイレを解放した。平成30年度は、ミルク工房で観望会のイベントを行っており、今後も実施するようであるため、センターとの連携を計画していきたい。			
天の川の撮影に挑戦！(固定撮影)	10月7日(日)	自然保護センター 観察棟	14
当日の天候は晴れ予報であったが、20時過ぎから雲がかかってきた。撮影方法についての講話を45分程度行った後、野外に出て実習を行ったが、残念ながら雲が8割程度あったため、雲の切れ間を狙っての実践となった。遠くの街灯などを使い、ピント合わせの練習もしたが、雲が増えてきたため、少し早めに実習を終えて、撮影方法の補足説明を行った。			
天体撮影に挑戦！(直焦点撮影)	11月22日(水)	自然保護センター 観察棟	中止
予定日は天気が悪く中止とした。コアな天文ファンや天文リーダーに対する関心や知識を高めるうえでも重要な行事であるが、参加希望者が少ないため、実施に関しては今後検討が必要である。			

◆特別天体観望会

特異な天文現象や大型連休に合わせて、冬期を除いて年間7テーマ(のべ11日間)の特別天体観望会を計画・実施した。悪天候時はプラネタリウムの投影や天体ドームにおいて、望遠鏡の紹介や天文に関する解説などを実施した。

テーマ	実施月日	参加人数(人)	
星空観望ゴールデンウィーク ～月のクレーターと木星をみよう～	4月28日(土)	102	計 448
	4月29日(日祝)	150	
	5月4日(金祝)	86	
	5月5日(土祝)	110	
平成30年度のGW観望会は4日間の開催中、3日間は晴天のもと天体観望ができた。最終日のみ薄い雲があり、プラネタリウムを実施した。来館者数は二日目が多かったが、予め打ち合わせをし、3階望遠鏡と野外とで簡単にローテーションをしたので、全体的にはスムーズに運営でき、野外の解説は参加者にも好評であった。ただし、強風によるマットの撤去や、曇雨天によるプラネタリウムへの切り替えもあった。今後も野外での観察を入念に計画していきたい。			
七夕の夜 ～織姫星と彦星をみよう～	7月7日(土)	23	
観望会当日は雨天であったため、望遠鏡や肉眼での観望はできなかった。今回は、前日からの予報で悪天が予想されたため、雨天時の準備は十分にできた。天体ドームでの解説内容や、観望会開始からプラネタリウムの終了までのタイムスケジュールはスムーズに進行でき、参加者にもある程度満足していただけた。			
15年ぶりの大接近！巨大な火星をみよう	7月31日(火)	337	
天気予報から、曇天または雨天が予想されたため、当日16時にHPにて、天気予報と現在状況を公開した。当初の打ち合わせでは、天体ドームでの火星解説を19：30～19：55、プラネタリウムを20：00からと20：45からの実施予定だったが、ひどい混雑のため、プラネタリウムを19：30からも実施した。20：00以降、わずかな晴れ間が出てきたため、望遠鏡での観望を実施した。21：15までは、木星と土星が何とか見えたため、巨大望遠鏡と小望遠鏡1台で観望した。			
お盆には星を…	8月14日(火)	179	
観望会スタート時には、雲が7割ほどあり、80cm反射式天体望遠鏡では、雲の間から見える天体を導入した。また、南側が曇天のため、見上げてゴロンは中止、プラネタリウムを実施した。上映時間は20：00～と20：45～で案内表示とアナウンスをした。20：00～は定員オーバーとなったが、入れなかった方は、天体ドーム室でのパワーポイント解説を聞いたり、野外のブルーシートで観望したりした。			
シルバーウィークの夜 ～土星と火星をみよう～	9月15日(土)	37	計 49
	9月16日(日)	12	
9月15日は天気予報通りの雨天であったため、ドームでの天体解説とプラネタリウムを実施した。9月16日は天気予報はくもりであったが、9時頃に雨が降った。15日と同様、ドームでの天体解説とプラネタリウムを2回ずつ実施した。			
中秋の名月	9月24日(月祝)	7	
当日は天気予報通りの曇天であったため、ドームでの天体解説とプラネタリウムを実施した。一般7名と参加者数は少なかった。プラネタリウムは20：00からの1回のみの実施であった。月の模様の見立てや、月の解説チラシを参加者に配布した。			
アンドロメダ大銀河と天王星・海王星をみよう	11月3日(土)	213	
天気予報通りの快晴であり、観望にはこの上ない条件となった。寒さはあったが、野外の解説はたいへん好評であり、30分以上観察をしている参加者もいた。望遠鏡でのアンドロメダ銀河観望は、初めて見る参加者にとっては新鮮さがあったようで、80cm反射、20cm屈折、その他の望遠鏡での見え方の違いを堪能していた。この季節は、スバルや二重星団なども観望でき、観望会を開催するには丁度良い季節のため、今後も実施していきたい。			
計7テーマ	のべ実施日数：11日	1,256	

◆天体観望会

一般来館者を対象に、4月～12月、3月の土曜日の夜に「週末天体観望会」を実施した。（曇天・荒天時はプラネタリウム）また、「昼の天体観望会」は、日中の来館者を対象に、太陽や金星、1等星などの観望を行った。この他、事前申し込みによる団体を対象に天体観望会を実施した。

	実施回数（回）	参加者数（人）
一般対象 週末天体観望会	30	1,177
一般対象 昼の天体観望会	192	1,047
団体対象 天体観望会	48	1,972
計	270	4,196

◆プラネタリウム・冬の星空ガイド

一般来館者および事前申し込みによる団体を対象に、プラネタリウムの投影を行った。一般を対象としたプラネタリウムは、4月～12月、3月の土曜日・日曜日・祝日に1日4回実施した。また、1～2月の土曜日・日曜日・祝日には「冬の星空ガイド」として、本館で天体シミュレーションソフトやパワーポイントを用いた星座解説や星座物語の上映を実施した。

	実施回数（回）	参加者数（人）
一般対象 プラネタリウム（土・日曜日・祝日） （うち 冬の星空ガイド1～2月）	251 (34)	1,852 (184)
団体対象 プラネタリウム （うち 冬の星空ガイド1～2月）	85 (4)	3,065 (66)
計 （うち 冬の星空ガイド1～2月）	336 (38)	4,917 (250)

○観察棟利用者へのしおり配布について

観察棟の来館記念として、来館者全員に天体関係のオリジナルのしおりを1枚ずつ配布した。団体利用者には、観察棟パンフレットと一緒にまとめて配布した。しおりは、星座シリーズ27種、天体シリーズ16種、惑星・太陽・月シリーズ11種があり、季節に応じて10種ずつ準備し、リピーターには異なったしおりを選べるようにした。

（3）館内・自然観察の森ガイド

- ・「四季の自然観察シリーズ」として、4月～10月の日曜日、祝日に一般来館者を対象に1日2回、自然保護センター館内および自然観察の森のガイドを行った。（実施：38回、参加者：343人）
- ・「冬の野鳥レストラン」として、1月～2月の土・日・祝日に野鳥観察ガイドを行った。
（実施：10回、参加者1,016人）
- ・事前申し込みによる団体を対象に、センター周辺で「館内・自然観察の森ガイド」を実施した。
（41団体、2,008人）

平成30年度館内・観察の森等解説ガイド実績（一般）

	四季の自然観察シリーズ								冬の野鳥レストラン		
月	4	5	6	7	8	9	10	計	1	2	計
回数（回）	4	7	4	6	5	7	5	38	5	5	10
参加者（人）	32	113	23	51	36	57	31	343	536	480	1,016

平成30年度自然観察の森解説ガイド（四季の自然観察シリーズ）一覧

実施日	曜日	テーマ	講 師
4/15	日	観察の森に咲く花を見てみよう	田渕 千鶴子
4/22	日	オオルリ・キビタキは来ましたか？	酒井 敬治
4/29	日祝	気候療法で春の森を歩こう	牧野 晃治
4/30	月振休	いろんな葉っぱを見てみよう	廣野 栄美
5/3	木祝	春の女神、ギフチョウに会いに行こう	櫻井知栄子 伊藤 勝幸
5/4	金祝	色々な虫を見つけよう	矢村 健一 多田 雅充
5/5	土祝	森の幼稚園	大石橋 節子 斎藤 寿子
5/6	日	この葉で写し絵を作ってみよう	牧野 晃治
5/13	日	ちょっと早い夏をみつけよう	山岸 登美子
5/20	日	自分で生き物をつかまえてみよう	浅利 裕美
5/27	日	コシアブラで遊ぼう	山田 儀一
6/3	日	森の中いろんな命がキラキラ輝いている	斎藤 寿子
6/10	日	葉っぱのいろいろ	矢尾 政士
6/17	日	馬取池の生き物と環境について探ってみよう	井草 貴男
6/24	日	葉っぱで遊ぼう	山田 儀一
7/1	日	モリアオガエルの卵・オタマジャクシをみにいこう	朝日 正之
7/8	日	森の中で甲虫を探そう	伊藤 勝幸
7/15	日	木漏れ日の中を歩こう	矢尾 政士
7/16	月祝	高原の生き物たちは	井部 正興
7/22	日	自然を体感しよう	多田 雅充
7/29	日	真夏の森と動物たち	大石橋 節子
8/5	日	自然を体感しよう	斎藤 寿子
8/11	土祝	森で甲虫を探そう	伊藤 勝幸
8/12	日	真夏の高原の生きものたちは	井部 正興
8/19	日	クモの名前をしらべよう	浅利 裕太
8/26	日	夏の森を探検しよう	源野 みね子
9/2	日	いろいろな葉っぱを見てみよう	廣野 栄美
9/9	日	初秋の森を歩こう	櫻井 知栄子
9/16	日	森のふしぎな玉手箱をあけてみよう	斎藤 寿子
9/17	月祝	水辺の生きものたち	矢村 健一
9/23	日祝	森のようちえん	大石橋 節子
9/24	月振休	森の中にはふしぎがいっぱい	山岸 登美子
9/30	日	たねのさくせん	山田 洋子
10/7	日	赤とんぼってなあに？	井草 貴男
10/8	月祝	赤とんぼをつかまえよう	矢村 健一
10/14	日	ひつつきむしをさがそう	櫻井 知栄子
10/21	日	草原でノビタキを探そう！	酒井 敬治
10/28	日	秋の森の不思議	矢尾 政士

(4) 特別企画など

ゴールデンウィーク、夏休み、六呂師高原アルプス音楽祭などの連休等に特別企画イベントを開催し、入館者の増を図った。

＜平成30年度連休等での特別企画の実施状況＞

特別企画の内容	実施月日	場所	参加者
ゴールデンウィーク特別企画 「森の材料で工作しよう」	4月29日～ 4月30日	ウォーキングセンター	183名
ゴールデンウィーク特別企画 「森の材料で工作しよう」	5月3日～ 5月5日	工作室	106名
夏休み特別企画 「土曜の夜はライトトラップだ」	8月4日 7月28日(中止)	学習広場	193名
夏休み特別企画 「外来種で草木染め」	8月11日	工作室	39名
アルプス音楽祭 「しおり作り」	9月16日～ 9月17日	ウォーキングセンター	210名
アルプス音楽祭 「森の材料で工作しよう」	9月16日～ 9月17日	ウォーキングセンター	185名

(5) 生き物百葉箱事業

小学校などの子どもを含む団体が自主的に行う身近な自然環境の観察や調査を支援し、継続的な調査や生態系の保全・再生の必要性を学ぶことを目的とした事業で、継続的な自然観察をする団体の登録、登録団体への教材（生き物図鑑下敷き）の配布、専門家など（ゲストティーチャー）の派遣を行った。

・登録人数（団体数） 5,936人（187団体）

・ゲストティーチャーの派遣回数 19回（派遣人数 年間40人、受講者人数 年間760人）

（登録グループ別内訳）

グループ名	登録数	登録人数
学 校	45	2,148
団 体	62	2,801
放課後クラブ	7	220
公民館	13	437
子供会	2	69
一 般	57	206
エンゼルランド	1	55
合 計	187	5,936

(6) インターネットによる自然情報の発信

①ホームページによる情報発信

更新：年109回、年間アクセス件数：77,458件（前年件数105,218件、前年比26%減）

②フェイスブックページによる情報発信

更新：年33回、年間アクセス件数：26,104件

③メールマガジン「みみずく通信」による情報発信

・購読者の増加を図るため、携帯電話用のメールマガジンをPC版と併せて配信

・PC版「みみずく通信」 配信回数：年間48回、累計330号（2006年1月より）

配信人数：817人（前年数619人、前年比11.5%増）

・携帯版「みみずく通信」 配信回数：年間48回、累計267号（2010年11月より）
 配信人数：216人（前年数145人、前年比16.1%増）

（７）普及誌の発行

自然保護の普及啓発誌である『ナチュラリスト』を年間３号発行した。なお、84、86号は自然保護センターで、85号は海浜自然センターで編集発行した。

発行年月日	巻号	通算	特集内容
平成30年10月11日	第29巻 1 号	84号	池ヶ原湿原の自然再生
平成31年 2 月 7 日	第29巻 2 号	85号	福井県のクラゲたち
平成31年 3 月14日	第29巻 3 号	86号	ふくいSATOYAMA学級 2019行事案内

（８）傷病鳥獣救護

傷病鳥獣の救護は、社団法人福井県獣医師会への救護委託および傷病鳥獣保護飼養ボランティア制度の活用によって実施した。平成30年度の傷病鳥獣の救護、治療件数は全体で178件、206個体であった。このうち、自然保護センターが収容した傷病鳥獣は68件95個体であった。その内訳は鳥類62件87羽（91.6%）、哺乳類6件8頭（8.4%）であった。鳥類ではツバメ23羽（24.2%）、スズメ14羽（14.7%）、ムクドリ10羽（10.5%）が保護された。哺乳類ではカヤネズミが3頭（37.5%）、キツネが2頭（25.0%）、同じくタヌキが2頭（25.0%）保護された。

また、動物病院に持ち込まれた傷病鳥獣は110件、111個体であった。その内訳は鳥類103件104羽（93.7%）、哺乳類7件7頭（6.3%）であった。鳥類では、ツバメ18羽（17.3%）、トビ11羽（10.6%）ドバト9羽（8.6%）、の順で多かった。哺乳類では、タヌキ2頭（28.6%）、同じくニホンカモシカ2頭（28.6%）、キツネ、イタチ、ノウサギの各1頭が保護された。

自然保護センターの救護個体の放野率（放野個体数／放野個体数＋死亡・安楽殺個体数）は、49.5%であった。

① 傷病鳥獣の保護飼養数（自然保護センター取扱い）過去10年間のみ詳細を掲載（件・個体数）

年度		2～20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	累計
鳥 類	件 数	1,066	79	89	74	96	75	75	81	79	81	62	1,857
	個体数	1,580	111	128	104	121	116	96	127	95	109	87	2,674
哺乳類	件 数	209	13	11	13	9	6	9	6	8	13	6	303
	個体数	231	16	12	29	9	7	9	7	11	13	8	352
計	件 数	1,275	92	100	87	105	81	84	87	87	94	68	2,160
	個体数	1,811	127	140	133	130	123	105	134	106	122	95	3,026

※ 福井県獣医師会による治療後、自然保護センターが扱った個体を含む。

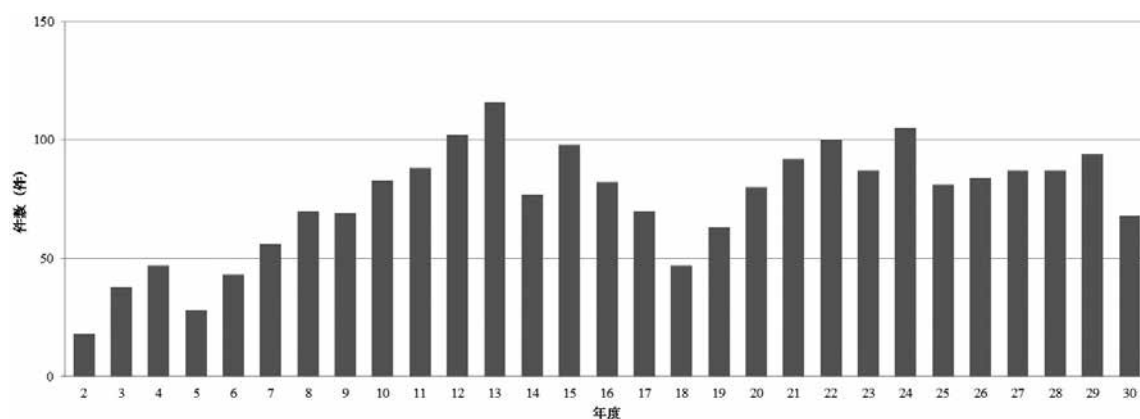


図 自然保護センターにおける傷病鳥獣救護・飼養件数の推移（平成2年度～平成30年度）

② 傷病鳥獣の治療数（福井県獣医師会取り扱い）過去10年間のみ詳細を掲載（件・個体数）

年度		2～20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	累計
分類	件数	3,900	256	260	201	260	228	227	232	209	249	103	6,125
	個体数	3,980	256	267	208	270	241	234	240	216	264	104	6,280
哺乳類	件数	392	29	16	19	21	24	22	18	22	18	7	588
	個体数	402	35	16	19	21	24	22	18	23	18	7	605
計	件数	4,292	285	276	220	281	252	249	250	231	267	110	6,713
	個体数	4,382	291	283	227	291	265	256	258	239	282	111	6,885

※ 自然保護センターから治療のために委嘱獣医師に搬送した個体数も含む。

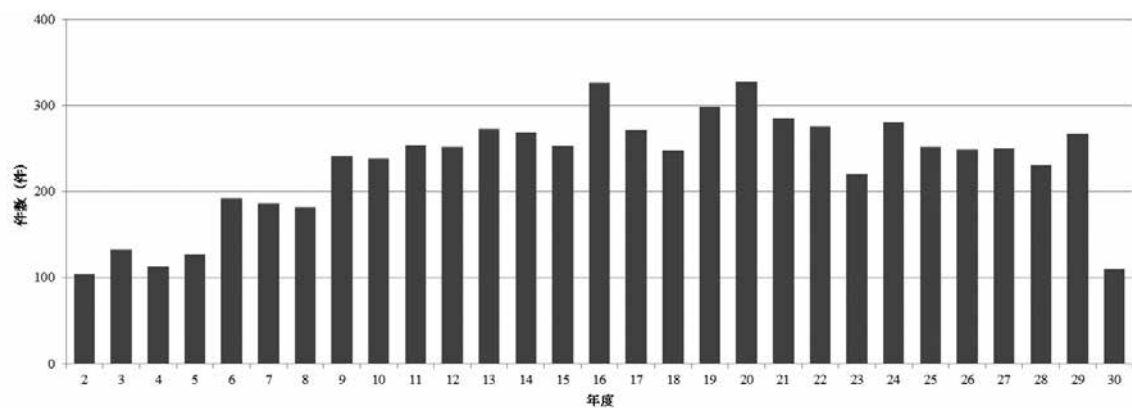


図 福井県獣医師会による治療件数（平成2年度～平成30年度）

③ 救護した鳥獣種とその結果（1/2）（個体数）

鳥獣名	自然保護センター取扱い						福井県獣医師会取扱い						
	放 野	死 亡	安 楽 死	飼 養 継 続 中	そ の 他	合 計	放 野	死 亡	安 楽 死	移 管	飼 養	そ の 他	合 計
鳥類													
ハジロカイツブリ							1						1
カンムリカイツブリ	1					1	2						2
オオミズナギドリ	1					1	2	2		1			5
ゴイサギ	1					1							
ダイサギ		1				1		2					2
アオサギ								1					1
カルガモ	1					1		1		1			2
ハシビロガモ			1			1				1			1
トビ	3	1				4	4	3	1	3			11
ハイタカ		1				1							
ハヤブサ							1	1					2
チョウゲンボウ	1	1	1			3				1			1
キジ							1	1					2
オオバン							1	1					2
キジバト	6	1				7	1			1			2
アオバト								1					1
ホトトギス	1					1							
コノハズク		1				1				1			1
オオコノハズク		1				1				1			1

③ 救護した鳥獣種とその結果 (2/2)

(個体数)

鳥獣名	自然保護センター取扱い						福井県獣医師会取扱い						
	放 野	死 亡	安 楽 死	飼 養 継 続 中	そ の 他	合 計	放 野	死 亡	安 楽 死	移 管	飼 養	そ の 他	合 計
ヨタカ								1					1
カワセミ		1				1							
アオゲラ								1					1
ツバメ	8	15				23	2	13	1	2			18
セグロセキレイ		7				7							
ヒヨドリ								3					3
コルリ		1				1							
イソヒヨドリ								1					1
ウグイス								1					1
メボソムシクイ							2						2
センダイムシクイ								1					1
オオルリ									1				1
ヤマガラ	1					1							
シジュウカラ							1						1
カワラヒワ								2					2
スズメ	3	11				14	1	7					8
ムクドリ	8	2				10	1			3			4
ハシボソガラス						0		4					4
ハシブトガラス								1					1
ドバト	6					6	2	4		2	1		9
鳥類（種不明）							2	4	3				9
鳥類合計	41	44	2	0	0	87	24	56	6	17	1	0	104
哺乳類													
ニホンノウサギ								1					1
カヤネズミ	3					3							
タヌキ	2					2			1	1			2
キツネ	1		1			2			1				1
イタチ								1					1
カモシカ		1				1				2			2
哺乳類合計	6	1	1	0	0	8	0	2	2	3	0	0	7
総計	47	45	3	0	0	95	24	58	8	20	1	0	111

④ 傷病鳥獣保護飼養個体の委託および譲渡

(件・個体数)

	年度	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
		委託	譲渡	委託	譲渡	委託	譲渡	委託	譲渡	委託	譲渡
鳥 類	件 数	7	0	8	0	4	0	4	0	4	0
	個体数	7	0	8	0	5	0	4	0	4	0
哺乳類	件 数	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	個体数	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
計	件 数	7	0	8	0	6	0	4	0	0	0
	個体数	7	0	8	0	7	0	4	0	0	0

※委託は傷病鳥獣保護飼養ボランティアへの飼育委託を示す。

(9) 自然に関する相談

県民や行政などからの自然に関する相談や専門的な質問に回答した。

平成30年度の分野別、内容別の相談件数

分 野 別	件数
哺 乳 類	39
鳥 類	129
そ の 他 脊 椎 動 物	9
無 脊 椎 動 物	1
植 物	1
地 形 ・ 地 質	0
天 体 ・ 天 文	0
そ の 他	6
計	185

内 容 別	件数
傷 病 鳥 獣	102
自 然 一 般	59
自 然 学 習	0
マスコミからの問い合わせ	1
行政からの問い合わせ	5
そ の 他	18
計	185

(10) 重要里地里山保全地区、生き物共生ホットエリア(重点活動地域)への支援事業

県は里地里山の絶滅危惧種が集中して分布している地域として、平成16年度に「福井県重要里地里山」30箇所を指定した。これらの地域において生物多様性の保全と活用を図るため、地域住民や県、市町、専門家等が連携して各地域の里地里山を計画的に保全する活動を支援してきた。

特に希少野生生物が分布する「白山・坂口」、「三方五湖周辺」、「中池見・池河内湿原」、「東尋坊・北潟湖」、「平泉寺・奥越高原」の県内5地域を「生き物共生ホットエリア(重点活動地域)」として選定し、重点的に自然再生活動を推進している。

平成30年度には、あわら市北潟地域(北潟地区)、坂井市陣ヶ岡丘陵地域(安島地区)、勝山市北谷町(小原地区)、六呂師高原、大野市阿難祖の5地域において団体等の活動支援を実施した。

①各支援地域における事業概要

ホットエリア	地 域 名	活動団体	主な事業内容	保全対象種
東尋坊・北潟湖地域	あわら市 北潟湖周辺	北潟湖の自然再生に関する協議会	①ため池の希少水生昆虫の保全と再生 ・水生昆虫の生息状況調査 ・特定外来生物(ウシガエル)の駆除 ②湿地性鳥類の生息状況調査 ・カスミ網を使った標識調査 ・センサーカメラによる潜行性鳥類の生息状況調査	オグマサナエ、トラフトンボ、アオヤンマ、ネアカヨシヤンマ、チョウトンボ、ミヤケミズムシ、マルケシゲンゴロウ、ノジコ、ヒクイナ等
	坂井市 陣ヶ岡丘陵地域周辺	陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会	・環境教育の実施(雄島小学校) ・監視カメラのメンテナンス ・侵略的な外来生物(アメリカザリガニ)の駆除	ゲンゴロウ類、ネアカヨシヤンマ、オオコオイムシ等
平泉寺・奥越高原地域	勝山市 北谷町	小原ECOプロジェクト	・ミチノクフクジュソウの観察会と保全活動(村岡小学校)	ミチノクフクジュソウ
	六呂師高原 周辺	池ヶ原湿原保全・活用協議会	①池ヶ原湿原保全・活用協議会の運営 ・保全・活用策の協議と合意形成 ・湿原植物を保全する外来種駆除活動とヨシ刈り活動 ②利活用の推進 ・環境教育の実施(平泉寺小学校) ・自然観察会 18回 ③湿原植物を保全する植生管理 ・ヨシの刈り取り ・ハンノキ高木の伐採 ・ハンノキ等低木類の伐採、巻き枯らし ・特定外来生物(オオハングンソウ)の駆除	ミズチドリ、トキソウ、ノカンゾウ、カキラン等
	大野市 阿難祖	大野市	・保全活動(草刈り、落葉葉枝の除去)	フクジュソウ

②講師派遣の概要

下記のとおり講師派遣を、計12回（4地域540人参加）実施した。

重要里地里山 地域名	活動名・演題	場 所	実施年月日	主催者	参加 人員
勝山市北谷町	ミチノクフクジュソウ 保全活動	勝山市小原地区、 勝山市立村岡小 学校	平成30年4月19日 平成30年7月10日 平成30年10月17日 平成31年3月8日 平成31年3月12日	小原ECOプロ ジェクト	41 41 34 41 40
勝山市平泉寺町	池ヶ原湿原自然観察会	勝山市池ヶ原地 区	平成30年4月11日 平成30年5月11日 平成30年7月10日 平成30年9月21日 平成30年10月13日 平成30年11月2日 平成31年2月6日	勝山市立 平泉寺小学校	26 36 27 27 27 36 12
坂井市 陣ヶ岡丘陵地域	坂井市陣ヶ岡丘陵地 自然観察会	えろもんのふけ、 三国町海浜自然 公園	平成30年6月14日	陣ヶ岡丘陵地域 生物多様性保全 協議会 雄島小学校	46
あわら北潟湖 周辺	北潟湖の生物多様性の 価値と保全上の問題	北潟公民館	平成30年11月24日	北潟湖の自然再 生に関する協議 会	106

③六呂師高原湿原植生管理支援事業

池ヶ原・妻平湿原では、平成21年度から24年度の緊急雇用創出事業により湿原の植生管理を実施し、希少かつ独自の植生やトンボ類等の多様性を再生させた。その後もこれらの景観や生物多様性を今後も維持していくため、再び成長するヨシやハンノキ等の植生管理を継続して実施している。

<妻平湿原>

・目的

妻平湿原本来の植生を保全するため、ヨシおよびハンノキを管理し、光環境を改善するとともに水深を確保する。

・内容

妻平湿原はミツガシワの県内最大級の生育地であり、他にも多様な湿性植物が生育し、かつて水田であった部分（約1,800㎡）と、以前から湿原であった部分から成り立っている。かつて水田であった部分は、上流から土砂や栄養分の流れ込みが増加し、ヨシ、マコモ等の高茎草本が繁茂しやすい状態になっている。このため、トンボ類の生息にとって好適な開放水面の面積が減少し、以前に比べオオルリボシヤンマ等が観察できなくなっている。

そこで、妻平湿原の南西側では、オオルリボシヤンマやギンヤンマなどの大型のヤンマ類の産卵環境を維持するため、平成27（2015）年から毎年6月に、職員作業によってヨシやマコモ類の除去を実施している。

一方、六呂師高原のハッチョウトンボは、すでに1978年の調査で確認されず、絶滅したと推定されていた（第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書（昆虫類），1979）。ところが2010年代になり、池ヶ原湿原と自然観察の森のトンボ池や妻平湿原で散発的に記録されるようになり、復活の期待が持てるようになった。そこで、これまでの記録地の中から最もハッチョウトンボの生息に適していると推定される妻平湿原の南東側において、平成27（2015）年度から、ハッチョウトンボの定着を目標とする植生管理を行ってきた。

植生管理は、湿地の水生植物群落の背丈を30cm程度に抑えるために、毎年6月に職員作業で、

8月にはインターシップ研修において、ヨシの抜き取りやマコモの刈り取りを実施した。その結果、平成27～29年の3ヶ年とも、オスが1頭ずつ、複数回確認された。

このようにハッチョウトンボの生息は、毎年期待が持てるようになったが、オスが1頭記録されているだけでメスの記録がなく、当該地において本種が再生産しているとはいえるような段階には達していない。よって今後も、さらに背丈を低くする植生管理を継続していく必要がある。

＜池ヶ原湿原＞

・目的

湿原本来の植生を保全するため、植生保全作業の実施とあわせて、外来植物の除去および園地の維持管理を行う。

・内容

池ヶ原湿原は、ミズチドリやオオミズゴケなど多様な湿性植物が生育する嶺北最大規模の湿原である。しかし、平成20年度以前はヨシ・低木・ハンノキが繁茂し、丈の低い湿性植物の生育を阻害していた。また、湿原内に特定外来生物オオハングンソウが侵入し、かつ管理頻度の低下に伴って園地のヤブ化が進んでいたが、平成21～24年度に緊急雇用創出事業による植生管理（ハンノキ、低木の除去及びヨシの刈り取り）、地下水位の上昇・水質の維持、オオハングンソウの除去等の作業の実施により湿原植生が回復した。平成25年度、「池ヶ原湿原連絡協議会」を設立し、自然保護センターを事務局とする、県、市、地域住民・企業、専門家等の多様な主体の連携による湿原保全の体制を作り保全活動を実施している。なお、会の目的を明確にするため、平成29年4月に、名称を「池ヶ原湿原保全・活用協議会」に改めた。

○池ヶ原湿原保全・活用協議会構成員

区 分	氏 名
専門家	小林 則夫 勝山市わくわく学習体験推進隊 北川 博正（副会長）
地域住民	松井 誠一（会長）池ヶ原湿原を守る会
企業	勝山ロータリークラブ マイランE P D合同会社勝山事業所 ケイターテクシーノ（株） 山田兄弟製紙（株）
教育機関	勝山市立平泉寺小学校
自然関係団体	ノーム自然環境教育事務所 福井県自然観察指導員の会
行政機関	勝山市商工観光部ジオパークまちづくり課 福井県奥越高原牧場 福井県奥越高原青少年自然の家 福井県自然環境課 福井県自然保護センター

平成30年度は、池ヶ原湿原保全・活用協議会の活動として、連絡協議会の開催、夏の観察会と外来種駆除活動イベント、秋のヨシ刈り活動イベントの開催や平泉寺小学校の環境教育の支援を行った。また、湿原内の植生保全のため、ヨシの刈り取り、ハンノキ等低木の伐採・環状剥皮、ハンノキ高木の伐採、オオハングンソウの除去を委託により実施した。

○池ヶ原湿原保全・活用協議会の活動状況

実 施 日	場 所	イベント名	概 要	参加人員
平成30年 5 月16日	奥越高原牧場	連絡協議会 (第 1 回目)	H30年度活動計画について 湿原現地確認の実施	18
6 月24日	池ヶ原湿原	初夏の湿原植物 観察会&外来植 物駆除活動	湿原植物の観察、湿原内外 のオオハンゴンソウの除去	42
10月20日	池ヶ原湿原	ヨシ刈り活動	ヨシ刈り、ハンノキの引き 抜き、外来植物の除去	47
平成31年 2 月27日	勝山市教育会館	連絡協議会 (第 2 回目)	H30年度事業実施結果報告 H31年度事業計画について	20

○植生保全のための委託作業状況

実 施 日	作 業 内 容	作業人員
平成30年11月 9 日、11月27日、 12月 5 日、12月11日	高茎草本の刈り取り ・高茎草本の刈り取り（ヨシの刈り取り） ・ハンノキ環状剥皮 ・手動ウィンチによる伐根	10人・日
10月20日、11月 9 日、 11月16日、12月 5 日	高木ハンノキの伐採	5 人・日
11月16日、11月27日、 12月13日	ハンノキ伐り株の覆土	2.5人・日
6 月 6 日、6 月 8 日、 6 月11日	ハンノキ・低木類の選択的除去	11人・日
6 月12日～9 月 3 日	オオハンゴンソウの除去	26人・日
計		54.5人・日

○自然観察会の開催

池ヶ原湿原の動植物を観察するために、池ヶ原湿原ガイドを、5月19日～7月21日の毎週土曜日（荒天中止1日）に1日2回（11:00-12:00,13:15-14:15）、延べ18回開催し、95名の参加があった（7ページ参照）。

また、6月28日には、大阪府のNPO法人シニア自然大学校からの依頼に応え、観察会を実施した。35名の参加があった。

（11）侵略的な外来種防除対策（特定外来生物ウチダザリガニ駆除活動）

九頭竜湖に定着したウチダザリガニの生態系被害防止と生息状況把握を目的に、カゴ罠による捕獲・駆除を実施した。平成30年は6月27日～9月9日（75日間）に、箱ヶ瀬地区面谷橋下に8個のカゴ罠を設置し、795個体を捕獲した。

捕獲の詳細と駆除結果

設置期間（日数）	設置個数	回収回数	捕獲数
6月27日～9月9日（75日間）	8 個	7 回	795匹
＜回収日ごとの捕獲数＞ 7 月 3 日（268匹）、7 月11日（144匹）、7 月18日（216匹）、7 月28日（72匹） 8 月12日（45匹）、8 月25日（36匹）、9 月 9 日（14匹）			

3 研修養成事業

自然保護に関心を持つ県民を養成するために、ナチュラリスト登録、リーダー養成講習会等の事業のほか、インターンシップをはじめとする各種研修生の受け入れを行った。

(1) ナチュラリスト養成

福井県ナチュラリスト事務局（自然保護センターと海浜自然センター内に設置）で、自然に関心のある人を「福井県ナチュラリスト」として積極的に登録した。平成26年以前は、登録時に自然情報誌「ナチュラリスト」郵送料500円を必要としていたが、平成27年度から、登録時にメールアドレスを登録すれば、インターネットから自然情報誌「ナチュラリスト」と年度行事カレンダー、年間行事案内チラシを無料でダウンロードできるようにした。（メールアドレス登録者数：平成30年度183人）また、登録特典グッズ（クリアファイルや缶バッジ）を製作し、登録者にはもれなく配布することによりナチュラリスト登録者数の増加を図った。

① クリアファイルの作成・配布

以下のクリアファイルを作製し、新規登録1名につき、いずれか1枚を進呈した。また、既に登録済みのナチュラリストにも、来館やイベント参加の際に希望があれば進呈した。但し、いずれの種類のクリアファイルも1名につき1枚までの進呈とした。

- ・天文（惑星、星座、星団など）（H28年度作成）
- ・六呂師高原 野の花めぐり（H29年度作成）
- ・冬の野鳥レストラン（H29年度作成）
- ・池ヶ原湿原花図鑑（H30年度作成）

② 缶バッジの作成・配布

以下の缶バッジを作製し、ナチュラリスト登録者1名毎に、来館やイベント参加の度に、缶バッジのいずれか1つを進呈した。

- ・福井の生きもの缶バッジ（全36種）
- ・野鳥レストラン缶バッジ（全10種）
- ・六呂師高原 野の花めぐり缶バッジ（全27種）

③ ナチュラリストのメルマガ登録の推進とメルマガ情報の充実

ナチュラリストとメルマガのアドレスの同時登録を推進し、センターのイベント情報、六呂師の生物情報（花、昆虫、野鳥など）、星空情報を積極的に発信した（年間47回配信、配信人数：PC版817人、携帯版216人）。

	新規登録者数			累 計 (人)
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
福井県ナチュラリスト登録者	1,101	686	506	12,394
（自然保護センター分）	(1,004)	(680)	(506)	(10,511)
（海浜自然センター分）	(6)	(6)	(0)	(1,883)

(2) ナチュラリストリーダー養成

ナチュラリストを指導するリーダーの養成を目的に、講演会を開催した。

テ　　ー　　マ	実施年月日	場　　所	参加人数
指導者養成講座 天文講演会 「美しい星空環境を守るには」	平成30年12月23日	福井県立図書館 多目的ホール	46人
今回は、福井工業大学の中城教授に、夜空の暗さの価値を中心にご講演いただいた。福井県内の夜空の素晴らしさをより良くし、地域活性に活かしていくために、今の我々に何ができるかを分かりやすく伝えていただいた。行政や企業向けのテーマであったため、特に市町の観光振興関係部署の関係者も参加をし、内容に興味関心を示していた。センターとしても、今回の講演内容を活かし、星空の美しさを広めることはもちろん、夜空の暗さを守るための活動にも注力していきたい。			

平成30年度は、ナチュラリストリーダー新規登録は無かった。累計の登録者数は110人。

(3) 研修生の受け入れ

福井県インターンシップ推進協議会、福井県経営者協会の要請を受け大学生のインターンシップ研修として5名を受け入れた。

研修名	依頼元	人数	所属	研修期間
福井県インターンシップ	福井県インターンシップ推進協議会・経営者協会	1	京都大学	8月9日～8月13日
		1	金沢工業大学	8月9日～8月13日
		2	福井県立大学	8月9日～8月13日
				8月22日～8月26日
		1	福井大学	8月22日～8月26日

4 資料収集事業

各分野の標本資料や視聴覚資料、自然に関する文献等の収集や保管を行った。

(1) 標本資料など

標本資料数（件）

分類 取得		哺乳類	鳥 類	魚・両生 ・爬虫類	昆虫類	無脊椎 動 物	植 物 菌 類	岩石・鉱物 ・古生物	天 文	その他
収 集	30年度	0	41	0	1	0	0	0	0	0
	累 計	78	401	94	2,446	47	1,623	42	0	2
購 入	30年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累 計	13	31	14	11	0	614	350	9	0
寄贈・寄託	30年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累 計	26	161	1	2,302	22	14,117	33	0	33
30年度計 累 計		0	41	0	1	0	0	0	0	0
		117	593	109	4,759	69	16,354	425	9	35

(2) 視聴覚資料

視聴覚資料数（件）

分類 取得		脊椎動物		昆 虫		無脊椎動物		植 物		地形・地質		天 文		その他	
		写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像
収 集	30年度	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累 計	1,843	13	1,702	4	25	0	3,537	0	1,725	4	855	2	514	42
購 入	30年度	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累 計	0	67	0	30	0	6	0	18	1	34	12	15	8	31
寄 贈	30年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累 計	118	25	547	4	0	1	13	6	47	25	211	86	1	114
30年度計 累 計		6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		1,961	105	2,249	38	25	7	3,550	24	1,773	63	1,078	103	523	187

(3) 文献資料

文献資料数

種 類 取 得		単行本（冊）	雑誌（冊）	報告書（冊）	その他（冊）
購 入	30年度	9	19	0	0
	累 計	1,343	71	0	0
交換・配付 （その他）	30年度	0	31	95	465
	累 計	0	265	4,106	7,769
寄 贈	30年度	1,397	61	19	0
	累 計	1,906	62	424	779
30年度計 累 計		1,406	111	114	465
		3,249	398	4,530	8,548

(4) 天文写真資料

好天時や天文現象にあわせて、観察棟天体観測室や野外にて、デジタルカメラによる撮影を行った。撮影した映像はホームページや提供資料に活用し、NHKなどメディア等にも話題提供した。

5 調査研究事業

福井県内の自然環境を把握し、自然保護の基礎資料とするために、各種調査研究を実施した。

(1) 渡り鳥保全調査（鳥類繁殖状況調査）

趣 旨： 福井県内の鳥類の繁殖分布とその変化を明らかにするため、全国鳥類繁殖分布調査の共同実施団体として、鳥類の種類、個体数、繁殖の可能性について調査する。

概 要： 福井県内の21コースを、調査コースごとに2～3人ずつの調査員で実施し、調査マニュアルに従い、5月中旬～6月中旬の午前5時～9時に、それぞれ1回ずつ現地調査を実施した。

調査者： 日本野鳥の会福井県の会員

(2) ガンカモ科鳥類生息調査（鳥類生息調査事業）

趣 旨： 鳥類保護行政の基礎資料とすることを目的として、福井県内に渡来するガンカモ科鳥類の生息状況を把握する。

概 要： この調査は、国（昭和44年度から林野庁、昭和48年度から環境庁、平成12年度から環境省）の依頼により、毎年1月15日前後に、全国一斉に行われているものである。福井県においては昭和52年度以降、県が日本野鳥の会福井県に委託して調査を実施している。調査は、坂井平野で平成31年1月5日、その他の調査地については平成31年1月6日に実施した。福井県におけるガン・カモ・ハクチョウ類の主要な渡来地となっている17か所の湖沼、河川、内湾、平野部において調査を行った。調査地の全域をカバーするように観察地点もしくはルートを設定し、調査地域内で観察されたガン・カモ・ハクチョウ類の種とその個体数を記録した。各調査地には3～17名の調査員を配置し、双眼鏡および望遠鏡により種を判定し、計数器により個体数を記録した。

結 果： 計17か所の調査地で、計19種28,425羽のガン・カモ・ハクチョウ類が記録された。昨年度と比較して種数は1種減で、個体数は2,088羽減少した。今回の調査で、ガン類が1種840羽、ハクチョウ類が2種88羽、カモ類が16種27,497羽記録された。昨年度と比較して個体数に大きな増減があった種は、スズガモ（1,715羽減）、ホシハジロ（505羽減）、マガモ（309羽増）、コガモ（279羽増）であった。優占度の高かった種は、マガモ（58.3%）、コガモ（16.1%）、カルガモ（9.9%）などであった。逆に個体数の少なかった種は、オオハクチョウ（2羽）、ミコアイサ（24羽）などであった。

成 果： 調査結果は日本全国の結果と統合して集計するため、環境省生物多様性センターに報告した。また、調査結果を下記の報告書にとりまとめ、関係機関等に配布した。

日本野鳥の会福井県（編）、2019、平成30年度ガンカモ科鳥類生息調査報告書、福井県自然保護センター、大野。

調査者： 日本野鳥の会福井県（委託）

(3) カワウ生息調査（鳥類生息調査事業）

趣 旨： 中部、近畿圏におけるカワウ広域保護管理指針策定の基礎資料とするため、福井県内におけるカワウの生息状況を把握する。

概 要： 近年、全国的に個体数が増加し、内水面漁業との間で軋轢が生じているカワウは、行動域が広く県境を越えて移動するため、その被害防止と保護の両立には広域的な保護管理が必要である。そこで、環境省主導のもと、中部近畿カワウ広域協議会が設立され、広域保護管理指針の策定を目指している。この協議会では、カワウの保護管理の基礎資料とするため、各府県が連携してカワウの生息状況を把握することとしており、本県においてもカワウの営巣地・ねぐら調査を年3回実施してきた。今年度も7月、12月、3月において、これまでに判明しているカワウの営巣地・ねぐら12地点で、日没前後の入巣・就埒個体数の計数を行った。また、11月～12月には新規営巣地・ねぐらを発見することを目的として、主要な水系沿いでルートセンサスを実施した。さらに、西日本では、カワウの新たな営巣地やねぐらはサギ類

の営巣地への侵入によって形成されることが多いため、主要なサギ類コロニー10地点についても、6月に営巣種と個体数を調査した。

結 果： カワウの営巣確認数は、7月に2ヶ所で32個、3月に2か所で20個の営巣が確認された。カワウの営巣地・ねぐら12地点における7月、12月および3月の入巣・就峙個体数の合計は、それぞれ228羽、592羽および441羽であった。

成 果： 広域的なカワウの生息状況把握に利用するため、調査結果を中部近畿カワウ広域協議会に報告した。

調査者： 日本野鳥の会福井県（委託）

（４）自然観察の森周辺環境調査

趣 旨： 自然保護センター周辺の自然環境を調査し、展示や来館者を対象とした自然環境教育の資料とする。

概 要： ・自然観察の森をはじめ、六呂師高原に分布する動植物の写真を撮影し、ホームページでの公開、ウォーキングセンターでの展示などに活用した。

- ・6月以降、六呂師高原各所にセンサーカメラを設置し、動物の生息状況調査と行動の撮影を試みた。結果、ニホンザル、ツキノワグマ、ホンドギツネ、タヌキ、アナグマ、テン、ハクビシン、ニホンカモシカ、ニホンジカ、イノシシ、ニホンノウサギ、ニホンリスが撮影された。

- ・馬取池においてモリアオガエルの産卵数調査を行い、約300個の卵塊を確認した。

調査者： 松村俊幸、國永知裕

（５）ブナ科樹木の豊凶調査（ツキノワグマ保護管理計画推進事業）

趣 旨： クマ大量出没の予測を含むツキノワグマ保護管理の基礎資料とするため、ブナ科樹木の豊凶を把握する。

概 要： クマ類の人里付近への出没件数には年次変動があり、ときに大量出没に至るが、その発生にはクマの秋期における主要な餌であるブナ科樹木の堅果類の豊凶が関与していると考えられている。そこで、クマ大量出没の発生を早期に予測することを目的として、8月中旬から9月上旬にかけて、県全域を対象としてブナ科樹木の樹上における着果状況を目視で調査し、その豊凶を把握した。平成30年は8月9日から9月2日にかけて、ブナ、ミズナラ、コナラの着果状況をそれぞれ300本ずつ調査した。

結 果： 平成30年度における各樹種の県全体の作柄は、ブナは不作、ミズナラ、コナラは並作であった。これまでの研究の結果、福井県内では山地に多く分布するブナとミズナラの作柄が揃って著しく不良となった平成18年と22年、26年にクマの大量出没が確認されたことから、山地における餌資源の不足が秋期のクマの大量出没の引き金になったことが示唆されている。過去13年間、福井県ではブナは平成奇数年に生り年、偶数年に不生り年となっていたが、これまで続いてきた変動パターンが崩れ、平成30年は、ブナの作柄は豊作年（平成17年、21年、23年）ほど良好な結実状況ではなかったものの、生り年にあたり、過去のクマ大量出没年を含む不生り年（偶数年）よりも良好であった。また、ミズナラの作柄は、密に着果した個体の割合が41％であり、平成21年に次いで過去2番目に良好であった。このため、県内全域で高標高の山地には、ある程度のクマの食物があるため、県全域でのクマ大量出没の可能性は低いと判断された。

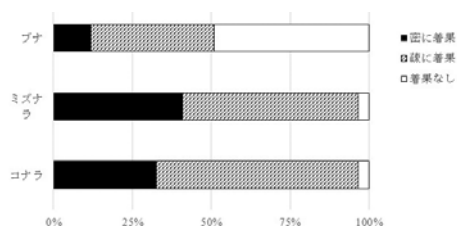


図 樹種ごとの着果区分別個体数割合。

成 果： 県は本調査結果にもとづき、平成30年9月13日に開催した「平成30年度ツキノワグマ出沒対策連絡会」において、出沒予測を発表した。平成30年度の福井県における秋期のツキノワグマ捕獲頭数は37件（シカ・イノシシ捕獲罠による錯誤捕獲を含む）であり、大量出沒には至らなかったためこの予測は的中したと言える。また、大野市からの要請を受け、9月19日には大野市ツキノワグマ出沒対策連絡会に出席し、出沒予測の発表と出沒時の対応確認を行った。

担当者： 國永知裕

（6）ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業

趣 旨： 国内希少野生動植物種に指定されているヤシャゲンゴロウの生息域外保全を行うために、人工飼育の方法を確立する。

概 要： 飼育室において成虫の交尾、産卵、孵化、蛹化、羽化の一連の飼育を行い、飼育方法を研究した。

結 果： 平成30年度は、前年度以前に自然保護センターで羽化した成虫と宇津尾飼育所および石川県ふれあい昆虫館から譲り受けた成虫35個体を飼育し、繁殖を試みた。6～7月に4度の産卵が確認されたが、大部分の卵にカビが発生し、孵化は29匹にとどまった。その後大部分の個体が幼虫段階で死亡し、羽化に成功した成虫は2個体のみであった。また、前年度以前に誕生した個体も大部分が死亡し、年度末時点で生存していた個体は合計7匹となった。

平成30年10月18日に福井市自然史博物館で開催されたヤシャゲンゴロウ生息域外保全検討会で他機関との情報交換を行った。また、検討会では保護増殖事業確認・認定式が行われ、越前松島水族館、福井市自然史博物館とともに、ヤシャゲンゴロウの保護増殖事業について、環境省より絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づき国の定めた保護増殖事業計画に適合する旨が認められ、確認証を受領した。

担当者： 山内良幸・國永知裕・伴紀好

（7）ブナ林衰退地域における総合植生モニタリング手法の開発

（国立環境研究所：地環研等共同研究Ⅱ型共同研究）

趣 旨： ブナ林域における全国展開可能かつ効率的な総合植生モニタリング手法を開発する。

概 要： ブナ林は、わが国の冷温帯を代表する森林であり、北海道南部から九州まで広範囲に分布しているが、近年各地で衰退が報告されている。ブナ林衰退の原因としては、オゾンなどのガス状大気汚染物質や酸性霧の関与、ブナハバチなどの虫害、台風等の風害、温暖化や少雪化、林床植生の退行なども含めた土壤乾燥化、さらにはシカの食害等が指摘されている。しかし、健全（衰退）度評価、樹木活性、植生状況、重要な環境要因などに関する調査項目や方法は、衰退地域によって様々であり、全国的な衰退状況把握および原因検討はほとんど行われていない。そこで、ブナ林域における全国展開可能かつ効率的な総合植生モニタリング手法を開発するとともに、ブナ林を有する多くの都道府県が参画する総合植生モニタリングのネットワークを構築する。

成 果： 平泉寺白山神社でのオゾンおよび二酸化窒素濃度測定調査を5月以降6ヶ月間実施した。オゾン濃度は5月には30ppbが計測されたが、以降は10～20ppbの範囲で推移した。二酸化窒素濃度は1.0ppb程度で推移し大きな変動はなかった。また、平成31年3月14、15日に兵庫県環境研究センターで開かれた平成30年度第2回検討会に参加し、過去3年間の調査結果の報告と意見交換を行った。

担当者： 國永知裕

（8）2018年 日本の原風景「赤とんぼ」を見つめ直すプロジェクト調査

趣 旨： 福井県内の赤とんぼの生態調査を実施する。

概 要： 県内各地の赤とんぼ、特にアキアカネの分布状況を把握するため、県民に対し、メーリングリスト、HP等を通じ、下記事項の報告を呼びかけ、センターに寄せられた報告を取りまと

めた。

赤とんぼ（アキカカネ）の確認年月日・時間、天候、確認場所・範囲、個体数

結 果：206件、49名の報告があった。

調査者： 松村俊幸

（9）Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）の発行

趣 旨： センターの調査事業および福井県内の自然に関する調査研究報告を一般に募集し、編集・発行する。

概 要： Ciconia vol.22掲載論文の一覧

- ・日本野鳥の会福井県サギ類調査グループ、福井県におけるサギ類のコロニーの分布と種構成：2015年サギ類コロニー調査の結果
- ・梅村信哉・柴田智広、2014年～2018年に三ノ峰で採集されたガ類、
- ・梅村信哉、大野市三ノ峰におけるアギトギングチの記録、
- ・梅村信哉、坂井市三国町内におけるムラサキツバメの記録、
- ・大宮正太郎、あわら市北潟におけるオオゴキブリの記録、
- ・大宮正太郎、越前市安養寺町におけるガムシの記録、
- ・國永知裕・山内良幸・松村俊幸、2017年の福井県におけるブナ科樹木3種の着果状況、

担当者： 國永知裕

6 そ の 他

(1) 福井県自然保護関係機関連絡会議の開催

福井県自然保護関係機関連絡会議は、福井県の自然環境や自然保護に関する調査研究を行っている機関相互の情報交換、共有化を促進し、ネットワークの強化を図るとともに、科学的情報に基づく自然保護の推進に役立てることを目的として設置した組織である。自然保護センター所長が議長となっており、下記の機関が加盟している。加盟機関が事務局を持ち回りで年に1回調査研究・活動事例発表会を開催している。

越前町立福井総合植物園、福井市自然史博物館、福井県総合グリーンセンター、福井県海浜自然センター、福井県自然保護センター、福井県里山里海湖研究所

平成30年度には、下記の事業を実施した。

・福井県自然保護関係機関連絡会議の開催

日時：平成31年3月9日（11:00～11:50）

会場：越前町立福井総合植物園プラントピア 植物館1階多目的ホール

参加者：構成機関より7名出席

・平成30年度調査研究・活動事例発表会の開催

日時：平成31年3月9日（13:00～16:00）

会場：越前町立福井総合植物園プラントピア 植物館1階多目的ホール

基調講演：「花の撮影について」宮 誠而 氏（写真家）

発表内容：池ヶ原湿原における植生管理の課題－刈払い後のハンノキの再生と立地の関係－

國永知裕（福井県自然保護センター）

県産「無花粉スギ」の開発・増産について

木下輝雄（福井県総合グリーンセンター）

モウソウチク林は悪者か？－鳥類・哺乳類の生息環境としての評価－

出口翔大（福井市自然史博物館）

変形菌分類学に関する最近の話題

松本淳（越前町立福井総合植物園プラントピア）

北潟湖周辺のため池に定着した特定外来生物ウシガエルによる生態系被害について

松村俊幸（福井県自然保護センター）

参加：33名

・ナチュラリスト86号において「ふくいSATOYAMA学級2019行事案内」を発行

(2) 大型野生動物の捕獲・放獣に関わる指導協力

自然保護センターでは市町等の要請があった際に、大型野生動物の麻酔薬による保定および放獣の指導を実施している。平成30年度は、ツキノワグマへの対応事例はなかったが、大野市からの要請を受け、住宅地に出没したニホンカモシカ傷病個体救護のための捕獲を実施した。

取り扱った大型野生動物個体の一覧

月日	市町	種名	成・幼の別	性別	麻酔処置
6月26日	大野市	ニホンカモシカ	成獣	オス	未実施

(3) 職員の派遣

他機関等からの要請に応じ、センターの担当職員を講師として派遣した。

講 師	活 動 名	場 所	実施年月日	主 催 者
國永知裕	池ヶ原湿原での年間活動計画検討	勝山市立平泉寺小学校	平成30年4月11日	勝山市立平泉寺小学校
丸山勝治 國永知裕	村岡小学校ミチノクフクジュソウ開花観察会	勝山市北谷町小原	平成30年4月19日	小原ECOプロジェクト
松村俊幸 丸山勝治 國永知裕 山岸登美子	水生生物観察会、水質とヨシの成長調査	勝山市平泉寺町池ヶ原湿原	平成30年5月11日	勝山市立平泉寺小学校
國永知裕	勝山市の絶滅危惧種について	勝山市立村岡小学校	平成30年5月11日	勝山市立村岡小学校
松村俊幸 國永知裕	水生生物観察会	三国町陣ヶ岡丘陵地	平成30年6月14日	坂井市立雄島小学校
松田知也	大野市の星について	大野市立開成中学校	平成30年6月22日	大野市立開成中学校
松村俊幸	自然いっぱい六呂師高原		平成30年6月26日	勝山市さわやか大学
國永知裕	ツキノワグマの生態と六呂師高原での生息状況について	奥越高原青少年自然の家	平成30年7月3日	奥越高原青少年自然の家
松村俊幸 丸山勝治 國永知裕 山岸登美子	昆虫採集・水生生物観察会、希少植物開花状況調査、水質とヨシの成長調査	勝山市平泉寺町池ヶ原湿原	平成30年7月10日	勝山市立平泉寺小学校
丸山勝治 國永知裕	村岡小学校ミチノクフクジュソウ保全作業・保全看板づくり	勝山市北谷町小原	平成30年7月10日	小原ECOプロジェクト
國永知裕	奥越地域保健・福祉・環境関係職員研修「外来生物について」	勝山市教育会館	平成30年7月11日	奥越健康福祉センター
國永知裕	さばえのけものアカデミー「クマと向き合う クマの生態と対策」	鯖江市役所	平成30年8月18日	鯖江市鳥獣害のない里づくり推進センター
松村俊幸 丸山勝治 國永知裕 山岸登美子	水生生物観察会、希少植物結実状況調査、水質とヨシの成長調査	勝山市平泉寺町池ヶ原湿原	平成30年9月21日	勝山市立平泉寺小学校
丸山勝治 國永知裕	ミチノクフクジュソウ保全活動看板づくり、生育地の下草除去作業	勝山市北谷町小原	平成30年10月17日	小原ECOプロジェクト
國永知裕	経ヶ岳紅葉登山 前日講和	奥越高原青少年自然の家	平成30年10月20日	奥越高原青少年自然の家
松村俊幸 丸山勝治 山内良幸 國永知裕	ヨシ刈り活動	勝山市平泉寺町池ヶ原湿原	平成30年11月2日	勝山市立平泉寺小学校

松村俊幸	北潟湖フォーラム 「北潟湖の生物多様性の保全上の課題(口頭)」、「北潟湖の生物多様性の価値(ポスター)」		平成30年11月24日	北潟湖再生協議会
松田知也	地球の運動と天体の動き	大野市立上庄中学校	平成30年12月6日	大野市立上庄中学校
國永知裕	池ヶ原湿原堆積物の花粉分析体験	自然保護センター本館	平成31年2月6日	勝山市立平泉寺小学校
丸山勝治	ミチノクフクジュソウ域外保全個体の校庭への移植作業	勝山市立村岡小学校	平成31年3月8日	小原ECOプロジェクト
國永知裕	ジオパークフェスタ2019 顕微鏡で見てみよう！九州からやってきた火山灰と堆積物花粉の観察	勝山市教育会館	平成31年3月10日	恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会
丸山勝治 國永知裕	ミチノクフクジュソウ域外保全個体の自生地への移植作業	勝山市北谷町小原	平成31年3月12日	小原ECOプロジェクト

(4) 学会・研究集会・シンポジウムでの発表

自然保護センターで行った調査研究の成果を発表した。

発表者	学会等の名称	発表テーマ
國永知裕	国立環境研究所 「山地森林域の生物・環境モニタリング」 第2回検討会 3月15日 兵庫県環境研究センター（神戸）	福井県勝山市平泉寺白山神社の低山ブナ林におけるオゾン濃度の推移
國永知裕、北川博正、八木健爾、坂口奈美、関岡裕明、松村俊幸	日本生態学会ポスター発表 3月18日 神戸国際会議場 国際展示室2号館	福井県池ヶ原湿原における刈払いによる植生管理と立地環境がハンノキの生育に与える影響
高原光、佐々木尚子、林竜馬、國永知裕	日本生態学会 ポスター発表 3月18日 神戸国際会議場 国際展示室2号館	福井県六呂師高原における最終氷期以降の植生変遷－池ヶ原湿原堆積物の花粉分析

(5) 委員の受託など

他機関等から委嘱された委員等への就任を受託した。

氏名	団体名称	事務局
松村俊幸	奥越地域自然環境検討会	国土交通省福井河川国道事務所
	冠山峠道路自然環境検討会	国土交通省福井河川国道事務所
	福井県流域環境ネットワーク協議会河道技術部会	国土交通省福井河川国道事務所
	吉野瀬川ダム自然環境検討会	吉野瀬川ダム建設事務所
	河内川ダム自然環境検討会	河内川ダム建設事務所
	北潟湖の自然再生に関する協議会	あわら市生活環境課
	鳥獣保護管理プランナー	環境省自然環境局
	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	農林水産省生産局
國永知裕	国立環境研究所客員研究員	国立研究開発法人国立環境研究所
	治山事業における広葉樹植栽等指針作成検討会	福井県農林水産部森づくり課

(6) 事業協力を行った関係団体

以下の団体・機関等と連携・協力して各事業を実施した。

① 指導普及事業

ア 自然観察会など

福井県自然観察指導員の会、日本野鳥の会福井県、福井ライフ・アカデミー、福井大学理数系教員養成拠点構築事業

イ 自然愛護

福井県獣医師会

ウ 里地里山の保全、普及

安島区自治会、えろものふけを守る会、越前松島水族館、坂井市環境推進課、小原ECOプロジェクト、勝山市立村岡小学校、環境省白山保護官事務所、勝山市教育委員会史蹟整備課、福井県奥越農林総合事務所、福井大学教育地域科学部地域政策講座、平泉寺町まちづくり推進協議会、マイランEPD合同会社、ケイテーテクシーノ株式会社、勝山ロータリークラブ、ノーム自然環境教育事務所、福井県自然観察指導員の会、山田兄弟製紙株式会社、勝山市立平泉寺小学校、勝山市ジオパークまちづくり課、奥越高原青少年自然の家、福井県奥越高原牧場

エ 天体観望会など

オヤット天文クラブ、ハツ杉天体観測所、奥越星を見る会、奥越高原青少年自然の家

オ 職員派遣

小原ECOプロジェクト、陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会、福井県奥越高原青少年自然の家、勝山市立平泉寺小学校、勝山市立村岡小学校、大野市立開成中学校、大野市立上庄中学校、福井県自然観察指導員の会、勝山市わくわく体験学習推進隊、NPO法人シニア自然大学

② 研修養成事業

福井県自然観察指導員の会、福井県インターンシップ推進協議会、福井県経営者協会、福井県教育研究所

③ 調査研究事業

日本野鳥の会福井県、石川県白山自然保護センター、富山県農林水産総合技術センター、京都府立大学生命環境学部森林科学科、国立環境研究所

④ 福井県自然保護関係機関連絡会議事業

福井市自然史博物館、越前町立福井総合植物園、福井県総合グリーンセンター、福井県海浜自然センター、福井県里山里海湖研究所

1 1年のあゆみ

- 4月7日～4月22日 特別展「愛鳥週間ポスター入賞作品展」(自然保護センター) 主催：自然環境課
- 4月9日 ツキノワグマ出没対策連絡会(県庁 正庁)
- 4月11日 平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会(勝山市)
- 4月19日 村岡小学校ミチノクフクジュソウ保全活動(勝山市) 主催：小原ECOプロジェクト
- 4月28日、29日、5月4日、5日 特別観望会「星空観望ゴールデンウィークー木星と春の天体をみようー」(自然保護センター)
- 4月29日～5月5日 ゴールデンウィーク特別企画「森の材料で工作しよう」(自然保護センター、ウォーキングセンター)
- 4月29日～7月29日 特別展「ふくいの動物はくせいクイズ」(自然保護センター)
- 5月11日 平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会(勝山市)
- 5月12日 里山観察ウォーク「新緑の青葉山麓を歩こう」(高浜町) 共催：福井県自然観察指導員の会
- 5月16日 池ヶ原湿原保全・活用協議会(奥越高原牧場)
- 5月19日～7月23日(毎週土曜日)池ヶ原湿原ガイド(勝山市) 共催：福井県自然観察指導員の会
- 5月26日 里山観察ウォーク「カキツバタの咲く池河内湿原」(敦賀市) 共催：福井県自然観察指導員の会
- 6月12日、13日 九頭竜ダムコクチバス駆除(大野市) 主催：水産課
- 6月14日 雄島小学校陣ヶ岡丘陵地自然観察会(坂井市)
- 6月16日 里山観察ウォーク「ハマナス咲く三里浜砂丘の自然」(福井市) 共催：福井県自然観察指導員の会
- 6月24日 池ヶ原湿原 初夏の湿原植物観察会&外来植物駆除活動(勝山市)
- 7月7日 特別観望会「七夕の夜一織姫星と彦星をみようー」(自然保護センター)
- 7月10日 村岡小学校ミチノクフクジュソウ保全活動(勝山市) 主催：小原ECOプロジェクト
- 7月10日 平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会(勝山市)
- 7月15日 天文教室「天体望遠鏡を作ってみよう！」(自然保護センター)
- 7月21日 夏休み標本教室「美しい植物標本を作ろう」(自然保護センター) 共催：福井県自然観察指導員の会
- 7月22日 天文教室「スマホやケータイで星を撮ろう」(自然保護センター)
- 7月22日～8月2日 特別展「白山国立公園パークボランティア写真展」(自然保護センター)
主催：環境省白山国立公園自然保護官事務所
- 7月31日 特別観望会「15年ぶりの大接近！巨大な火星をみよう」(自然保護センター)
- 8月4日 夏休み標本教室「作ってみよう昆虫標本」(自然保護センター) 共催：福井県自然観察指導員の会
- 8月4日 夏休み特別企画「土曜の夜はライトトラップだ」(自然保護センター)
- 8月11日 夏休み特別企画「外来種で草木染め」(自然保護センター)
- 8月12日 天文教室「ペルセウス座流星群をみよう」(自然保護センター)
- 8月14日 特別観望会「お盆には星を…」(自然保護センター)
- 9月8日 自然講座「自然保護セミナー 驚きのクモの世界～いま解き明かされるクモの不思議～」(自然保護センター) 共催：福井県自然観察指導員の会
- 9月13日 ツキノワグマ出没対策連絡会(県庁 正庁)
- 9月15日、16日 特別観望会「星空観望シルバーウィークー土星と火星をみようー」(自然保護センター)
- 9月16日、17日 アルプス音楽祭「しおり作り」「森の材料で工作しよう」(自然保護センター)

- 9月21日 平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会（勝山市）
- 9月24日 特別観望会「中秋の名月」（自然保護センター）
- 10月7日 天文教室「天の川の撮影に挑戦！」（自然保護センター）
- 10月11日 普及誌「ナチュラリスト」発行
- 10月13日 平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会（勝山市）
- 10月17日 村岡小学校ミチノクフクジュソウ保全活動（勝山市）主催：小原ECOプロジェクト
- 10月20日 池ヶ原湿原 ヨシ刈り活動（勝山市）
- 11月9日 天文教室「天体撮影に挑戦！」（自然保護センター）
- 11月2日 平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会（勝山市）
- 11月3日 特別観望会「アンドロメダ大銀河と天王星・海王星をみよう」（自然保護センター）
- 11月3日 里山観察ウォーク「歴史の浪漫街道一本ノ芽古道」（南越前町）共催：福井県自然観察指導員の会
- 11月24日 北潟湖フォーラム（あわら市）主催：北潟湖自然再生協議会
- 12月23日 ナチュラリストリーダー養成 指導者養成講座 天文講演会「美しい星空環境を守るには」（県立図書館）
- 1月26日～2月17日 特別展「白山国立公園パークボランティア写真展」（自然保護センター）
主催：環境省白山国立公園自然保護官事務所
- 2月6日 平泉寺小学校池ヶ原湿原観察会（勝山市）
- 2月7日 普及誌「ナチュラリスト」発行
- 2月9日 里山観察ウォーク「スノーシューで森の探検！」（自然保護センター）共催：福井県自然観察指導員の会
- 2月27日 池ヶ原湿原保全・活用協議会（勝山市教育会館）
- 3月8日 村岡小学校ミチノクフクジュソウ保全活動（勝山市）主催：小原ECOプロジェクト
- 3月9日 福井県自然保護関係機関連絡会議、調査研究事例発表会（越前町立総合植物園プラントピア）
- 3月12日 村岡小学校ミチノクフクジュソウ保全活動（勝山市）主催：小原ECOプロジェクト
- 3月14日 普及誌「ナチュラリスト」発行

2 施設利用実績

① 利用実績表

ア 本館・野外（館内・自然観察の森ガイド）（ ）内は内数 （人）

区 分		団 体	一 般	合計人数
本 館		195団体 9,402	13,350	22,752
内 訳	本館見学	(154団体 7,394)	(12,309)	(19,703)
	館内・自然観察の森ガイド	(41団体 2,008)	(1,041)	(3,049)

イ 観察棟（天体観望会およびプラネタリウム等）（ ）内は内数 （人）

区 分		団 体	一 般	合計人数
観 察 棟		89団体 4,710	5,671	10,381
内 訳	天体観望会	(33団体 1,712)	(1,384)	(3,096)
	プラネタリウム	(56団体 2,998)	(1,967)	(4,965)
	特別観望会・天文教室		(1,300)	(1,300)
	昼の天体観望会		(1,020)	(1,020)

② 団体利用内訳

ア 本館 H30

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳						高校	その他
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校			
					県内	県外	県内	県外		
4	4	230	0	0	204	0	0	0	0	26
5	25	1,466	50	325	807	156	0	0	128	0
6	11	843	0	0	753	0	0	0	0	90
7	32	941	0	241	24	221	34	0	0	421
8	19	1,138	484	204	327	75	48	0	0	0
9	10	515	0	417	0	0	0	0	0	98
10	24	1,226	0	484	358	99	0	0	0	285
11	6	270	0	0	270	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	9	330	0	270	0	0	0	0	0	60
2	14	435	264	93	78	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	154	7,394	798	2,034	2,821	551	82	0	128	980

イ 野外（観察の森ガイド等）

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳							
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	7	354	0	108	194	52	0	0	0	0
6	5	200	44	0	71	0	0	0	0	85
7	9	383	0	229	0	41	0	0	25	88
8	6	376	242	41	0	0	24	0	69	0
9	4	220	0	86	0	119	0	0	0	15
10	4	233	0	160	0	0	0	0	0	73
11	1	58	0	0	58	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	50	0	0	0	0	0	0	0	50
2	4	134	32	102	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	41	2,008	318	726	323	212	24	0	94	311

ウ 天体観望会（夜・昼）

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳							
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	5	164	0	0	63	0	0	46	0	55
7	5	357	0	0	68	41	0	0	25	223
8	8	504	134	0	167	135	24	0	44	0
9	5	301	0	0	60	119	89	0	0	33
10	6	386	0	0	159	201	26	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	33	1,712	134	0	517	496	139	46	69	311

エ プラネタリウム

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳							
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	1	102	0	0	102	0	0	0	0	0
5	9	716	0	0	507	145	0	0	64	0
6	6	315	0	0	269	0	0	46	0	0
7	15	536	0	75	101	109	0	0	25	226
8	12	588	134	58	197	175	24	0	0	0
9	5	283	0	0	9	119	89	0	0	66
10	6	342	0	0	95	201	26	0	0	20
11	1	58	0	0	58	0	0	0	0	0
12	1	58	0	0	0	58	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	56	2,998	134	133	1,338	807	139	46	89	312

3 運営会議

- ・福井県自然保護センターを効率的に運営するために、運営会議を設置した。

福井県自然保護センター運営会議委員 任期 平成29年4月1日～平成31年3月31日

	氏 名	勤 務 先 ・ 所 属 団 体	専門分野等
会 長	保科 英人	福井大学教育学部 准教授	昆虫
副会長	南部 友子	元大野青年会議所 ふるさと環境委員会委員長	環境
委 員	上藤 正純	大野市 産経建設部 商工観光振興課長	行政
委 員	酒井 敬治	日本野鳥の会福井県 代表	鳥類
委 員	山本 俊夫	奥越星を見る会 会長	天文
委 員	多田 雅充	福井県自然観察指導員の会 会長	植物
委 員	坂本 道子	ノーム(GNOMES)自然環境教育事務所 副代表	自然教育
委 員	松田 裕子	勝山市健康福祉部福祉・児童課子育て相談室長	幼児教育
委 員	末永 巖	大野市阪谷小学校 校長	学校教育
委 員	牧野 憲昭	勝山市立三室小学校 校長	学校教育

※所属等は平成30年4月1日現在。

4 気象データ

平成30年1月～12月

観測地：福井県自然保護センター芝生広場

	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備 考
日平均気温	上旬	0.1	-2.0		3.9	13.3	18.8	24.0	24.9	21.7	18.0	12.0	7.0	
	中旬	-0.1	-1.1		10.7	16.7	17.6	25.7	23.7	19.4	13.3	9.2	2.8	
	下旬	-2.9			15.2	17.8	21.9	26.1	25.6	17.8	11.8	7.7	1.9	
	月平均	-1.1	-1.6		11.4	16.0	19.5	25.3	24.8	19.7	14.3	9.6	3.8	
	平年値	0.4	0.9	4.2	10.1	15.0	19.2	22.9	24.4	20.3	14.5	9.3	3.6	
日最高気温 (平均)	上旬	3.1	0.8		7.7	17.4	23.7	27.1	29.3	24.9	21.8	16.3	10.2	
	中旬	2.5	1.3		15.8	21.1	21.5	30.6	28.6	23.4	17.7	13.4	5.5	
	下旬	-1.0			20.3	22.6	26.2	31.1	29.2	21.3	15.7	11.2	4.7	
	月平均	1.3	1.0		16.3	20.5	23.8	29.6	29.1	23.2	18.3	13.6	6.7	
	平年値	3.8	4.7	8.8	15.4	20.5	23.6	26.9	28.6	24.4	19.0	12.3	6.7	
日最低気温 (平均)	上旬	-1.7	-4.8		0.7	9.9	15.0	21.6	21.8	18.8	14.5	8.4	3.3	
	中旬	-2.3	-3.9		6.1	12.4	14.3	22.0	19.5	16.7	10.3	5.8	-0.2	
	下旬	-4.8			10.6	13.7	18.2	22.2	22.7	14.8	8.3	4.5	-0.6	
	月平均	-3.1	-4.4		7.1	12.0	15.8	21.9	21.4	16.8	10.9	6.2	0.8	
	平年値	-2.4	-2.6	-0.1	5.2	10.3	15.3	19.6	20.4	16.3	10.4	5.0	0.6	
積 雪 (最深積雪)	上旬	114	219	137	1.8							0	1	最深積雪 290cm 2月8日 初雪日11月23日
	中旬	132	210	82								0	7	
	下旬	142	210	27									3	

(注) 平年値：平成9年～30年までの平均値

初雪日：自然保護センターでの初雪の日

3月はデータ採れず

4 関係条例・規則

○福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例
平成二年三月二十七日
福井県条例第四号
改正 平成八年三月三十一日条例第一二号
平成十一年三月一六日条例第一四号
平成二六年三月二〇日条例第一号
福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例
を公布する。

福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例

(設置)
第一条 自然保護思想の普及を図り、もって県民の文化の
向上に寄与するため、福井県自然保護センター（以下「セ
ンター」という。）を設置する。
(位置)
第二条 センターは、大野市に置く。
(業務)
第三条 センターは、次に掲げる業務を行う。
一 自然の観察、研究等のために必要な施設または設備
の提供
二 自然の観察、研究等のために必要な助言または指導
三 自然に関する研修会、講習会等の開催
四 自然に関する資料の収集、保管および展示
五 自然に関する調査および研究
六 前各号に掲げるもののほか、センターの設置の目的
にふさわしい業務
(職員)
第四条 センターに、所長その他必要な職員を置く。
(施設等の使用の承認)
第五条 センターの施設または設備を使用しようとする者
は、知事の承認を受けなければならない。
(使用料)
第六条 センターの施設または設備を使用する者は、別表
に掲げる使用料を納付しなければならない。
2 既に納付した使用料は、還付しない。ただし、知事が
特に必要があると認めるときは、この限りでない。
(使用料の減免)
第七条 知事は、特に必要があると認めるときは、使用料
の全部または一部を免除することができる。
(委任)
第八条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定め
る。
附 則
この条例は、平成二年四月一日から施行する。
附 則（平成八年条例第一二号）
この条例は、平成八年四月一日から施行する。
附 則（平成十一年条例第一四号）
この条例は、平成十一年四月一日から施行する。
附 則（平成二六年条例第一号）抄
(施行期日)
1 この条例は、平成二十六年四月一日から施行する。
別表（第六条関係）
(平八条例一二・平一一条例一四・平二六条例一・一部
改正)
一 施設

区 分	金 額		
	9時から 12時まで	12時から 17時まで	9時から 17時まで
レクチャーホール	2,780円	4,530円	7,300円
会 議 室	740円	1,340円	2,080円
工 作 室	1,440円	2,260円	3,700円

二 設備

区 分	金額1回（5時間以内）につき
ワイヤレスマイク	200円
カセットテープレコーダー	200円
スライド映写機	530円
十六ミリ映写機	2,880円
ビデオテープレコーダー	1,340円

○福井県自然保護センターの管理運営に関する規則
平成2年3月27日
福井県規則第4号
福井県自然保護センターの管理運営に関する規則を公布
する。

福井県自然保護センターの管理運営に関する規則

(趣旨)
第一条 この規則は、福井県自然保護センターの設置およ
び管理に関する条例（平成二年福井県条例第四号。以下
「条例」という。）第八条の規定に基づき、福井県自然保
護センター（以下「センター」という。）の管理および
運営に関し必要な事項を定めるものとする。
(開館時間および入館時間)
第二条 センターの本館の開館時間は、午前九時から午後
五時までとする。ただし、入館時間は、午後四時三十分
までとする。
2 センターの観察棟の開館時間は、午前九時から午後九
時三十分までとする。ただし日曜日の開館時間は、午前
九時から午後五時までとする。
3 福井県自然保護センター所長（以下「センター所長」
という。）は、必要があると認めるときは、前二項の開
館時間および入館時間を変更することができる。
(休館日)
第三条 センターの休館日は、次に掲げる日とする。ただ
し、第一号または第二号に掲げる日が七月二十一日から
八月三十一日までの日である場合には、休館日としない
ものとする。
一 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法
律第七十八号）第三条に規定する休日（以下「休日」
という。）に該当する場合を除く。）
二 休日の翌日（土曜日、日曜日または休日に該当する
場合を除く。）
三 十二月二十八日から翌年の一月四日までの日（前二
号に該当する場合を除く。）
2 センター所長は、必要があると認めるときは、前項の
休館日を変更することができる。
(平一三規則二九・平一五規則一四・一部改正)
(入館の拒否)
第四条 センター所長は、センターに入館しようとする者
が次の各号のいずれかに該当するときは、入館を拒否す
ることができる。
一 他人に危害を加え、または迷惑を及ぼすおそれがあ
るとき。
二 施設または展示品を損傷するおそれのあるとき。
三 前二号に掲げるもののほか、センターの管理上支障
があると認められる行為をするおそれのあるとき。
(入館者の遵守事項)
第五条 センターに入館した者（以下「入館者」という。）
は、次に掲げる事項を守らなければならない。
一 展示品（特に指定した展示品を除く。）に触れない
こと。
二 展示品の近くで、インキ、墨等を使用しないこと。
三 承認を受けないで展示品の構造、模写または撮影を
しないこと。
四 所定の場所以外で喫煙または飲食をしないこと。

- 五 他人に危害を及ぼし、または迷惑となる行為をしないこと。
- 六 その他係員の指示に従うこと。
- 2 センター所長は、入館者が前項の規定に違反したときは、その者に対して退館を命じ、または必要な措置をとることができる。
- (施設等の使用の承認)
- 第六条 条例第五条の規定により、センターの施設または設備の使用の承認を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用承認申請書（様式第一号）をセンター所長に提出しなければならない。
- 2 センター所長は、前項の申請に対し使用を承認したときは、福井県自然保護センター使用承認書（様式第二号）を交付する。
- (使用者の遵守事項)
- 第七条 センターの施設または設備を使用する者（以下「使用者」という。）は、次に掲げる事項を守らなければならない。
- 一 承認を受けた使用内容を変更しないこと。
 - 二 センターの施設または設備をき損し、または汚損しないこと。
 - 三 使用の承認を受けた施設もしくは設備を転貸し、または当該承認に基づく権利を譲渡しないこと。
 - 四 館内の秩序または風俗を乱す行為をしないこと。
 - 五 承認を受けずに作品、物品等の販売、寄附金の募集、立看板の掲示その他これらに類する行為をしないこと。
 - 六 前各号に掲げるもののほか、センターの管理上支障がある行為をしないこと。
- 2 センター所長は、使用者が前項の規定に違反したときは、センターの使用の承認を取り消すことができる。
- 3 使用者は、センターの施設または設備の使用を終了したときは、原状に回復しなければならない。
- (使用料の還付)
- 第八条 条例第六条第二項ただし書の規定により、次の各号のいずれかに該当する場合には、使用料を還付することができる。
- 一 災害その他不可抗力により、施設または設備の使用ができなくなったとき。
 - 二 その他センター所長がやむを得ない事由があると認めるとき。
- 2 使用料の還付を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用料還付申請書（様式第三号）に領収書または福井県自然保護センター使用承認書を添えてセンター所長に提出しなければならない。
- (使用料の減免)
- 第九条 条例第七条の規定により、使用料を減免することができる場合およびその減免の額は、次に掲げるとおりとする。
- 一 県、県内の市町または県内の小学校、中学校、高等学校もしくは特別支援学校が主催する県民のための自然教育、自然保護等に関する事業に使用するとき 使用料に相当する額
 - 二 その他センター所長が特に必要があると認めるとき センター所長が必要と認める額
- 2 前項の規定により使用料の減免を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用料減免申請書（様式第四号）をセンター所長に提出しなければならない。
- 3 センター所長は、前項の申請に対し減免を承認したときは、福井県自然保護センター使用料減免承認書（様式第五号）を交付する。
- (平一八規則九・平一九規則二三・一部改正)
- (施設等の損傷または滅失の届出)
- 第十条 入館者および使用者は、センターの施設、設備等を損傷し、または滅失したときは、遅滞なくその旨をセンター所長に届け出て、その指示に従わなければならない。
- (その他)
- 第十一条 この規則で定めるもののほか、センターの管理および運営に関し必要な事項は、知事が別に定める。
- 附 則
この規則は、平成二年四月一日から施行する。
- 附 則（平成三年規則第一九号）
(施行期日)
- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- (様式に関する経営措置)
- 2 この規則による改正前の様式に基づいて作成した用紙は、当分の間、所要の調整をして使用することができる。

- 附 則（平成一三年規則第二九号）
この規則は、平成十三年四月一日から施行する。
- 附 則（平成一五年規則第一四号）
この規則は、平成十五年四月一日から施行する。
- 附 則（平成一八年規則第九号）抄
(施行期日)
- 1 この規則は、平成十八年三月三日から施行する。
- 附 則（平成一九年規則第二三号）抄
(施行期日)
- 1 この規則は、平成十九年四月一日から施行する。
- 様式第1号（第6条関係）（平3規則19・一部改正）

年 月 日				
福井県自然保護センター所長様				
申請者 住所 氏名 法人にあっては、その主たる事務所の所在地、名称および代表者の氏名				
福井県自然保護センター使用承認申請書				
福井県自然保護センターの施設（設備）を使用したいので、次のとおり申請します。				
事業名				
主催者名	所在地		電話	
	名称		代表者	
使用施設（設備）				
使用の概略	事業の概要			
	入場料徴収の有無 有 無 (料金 円)			
	推定入場人員数			
使用期間	設置する造作物			
	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで			

様式第4号（第9条関係）

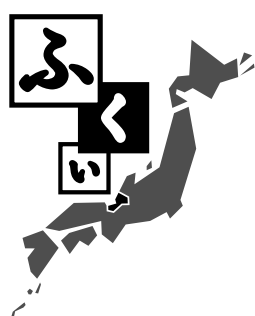
年 月 日				
福井県自然保護センター所長様				
申請者 住所 氏名 法人にあっては、その主たる事務所の所在地、名称および代表者の氏名				
福井県自然保護センター使用料減免申請書				
福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例第7条の規定により、次のとおり使用料の全部（一部）を免除してくださるよう申請します。				
減免申請の理由				
事業名				
使用施設（設備）				
使用期間	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで			
減免を受けようとする額	円			

発 行 日 令和元年11月

編集・発行 福井県自然保護センター
〒912-0131
福井県大野市南六呂師169-11-2
電話 0779-67-1655
F a x 0779-67-1656

印 刷 (株)松浦印刷所
電話 0779-66-2357

19. 11. 14930



健康長寿な福井です。



福井県自然保護センター

この冊子は再生紙を使用しています